

Hina

ゼロからでも絶対に英語が話せるようになる文法書





目次

1. はじめに	P.3
2. 英語の動詞のルール (be動詞・一般動詞)	P.5~8
3. 「いつの話？」を決めるルール (過去形・現在形・未来形・進行形)	P.9~14
4. 「今までのこと・今につながることを話す」 (現在完了形)	P.16~19
5. 文の形を変える方法 (否定・質問) (否定形・疑問文)	P.20~23
6. 「○○される」の文の作り方 (受け身の文)	P.25~28
7. 「できる・しなきゃ」の文の作り方 (助動詞)	P.29~33
8. "would" って何? (would)	P.35~39
9. 「どんな人? どんな物?」を説明する文 (関係代名詞)	P.40~43
10. 「いつ? どこ? なぜ?」を説明する文 (関係副詞)	P.45~48
11. 「~している / ~された」を説明する文 (分詞構文)	P.49~52
12. 5W1Hを使う疑問文 (WH疑問文)	P.54~58
13. 他にもあるWhatの使い方 (What構文)	P.59~62
14. 「もし~なら」「~かどうか」の文の作り方 (IF用法)	P.64~67
15. 「~すること」と言いたい時に使う文 (動名詞)	P.68~71
16. 「to + 動詞」で表す動作 (不定詞)	P.73~77
17. 「○○より~」「一番~」の文の作り方 (比較級・最上級)	P.78~81
18. 「It でスムーズに伝える文」 (it構文)	P.83~86
19. "a / an / the" の使い方 (冠詞)	P.87~90
20. ネイティブがよく使う単語の使い方	P.92~100
21. 似ているフレーズの使い分け	P.101~103
22. シチュエーション別フレーズ集	P.104~107
23. 不規則動詞まとめ	P.108~115

はじめに

文法書って、専門的な言葉が多かったり、説明がややこしかったりして、読むだけで疲れてしまうことはありませんか？「難しいな…」と感じた瞬間にやる気がなくなるのは、よくあることです。

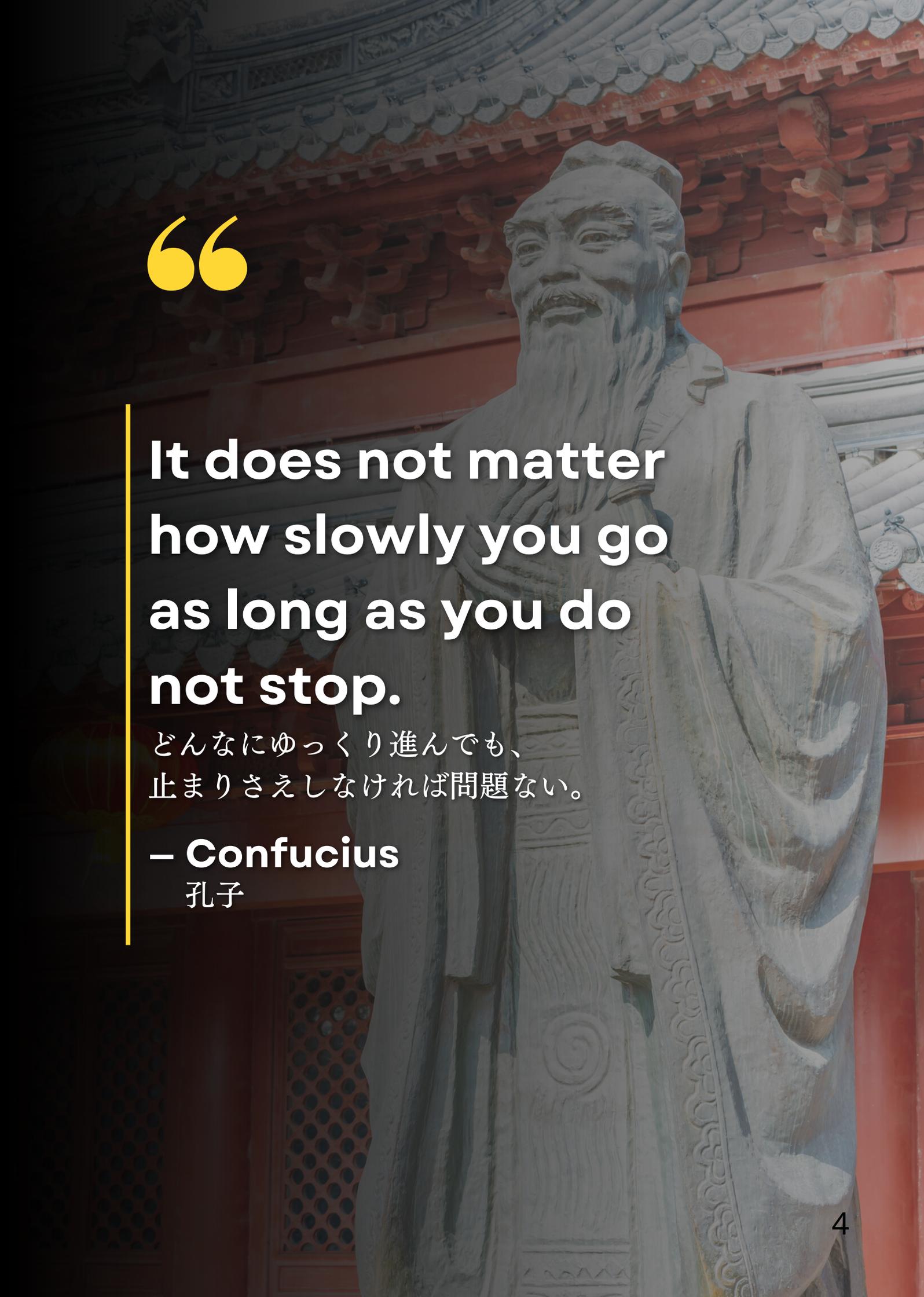
そこで本書では、できるだけ専門用語を使わずに、わかりやすく伝えることを大切にしました。たとえば、一般的な文法書では「能動態」「受動態」といった言葉が出てきますが、本書ではそれを「ふつうの文」「受け身の文」と、シンプルで直感的にわかる表現に置き換えています。こうすることで、「英語の文法って、意外とシンプルなんだ！」と感じてもらえるはずです。

また、日本語のややこしい説明もなるべく避けて、スッと理解できる言い方にしています。中学の英語で「なんだかよくわからないな」と思った部分も、本書では「なるほど！」と思えるような説明にしています。「英語の文法って、思ったより簡単かも？」と感じながら、楽しく学べるように工夫しました。

さらに、本書では実際の会話でよく使われる表現やフレーズを優先的に取り上げ、机上の知識だけで終わらないようにしています。ルールを覚えるだけでなく、実際に使う場面を想像しながら学ぶことで、英語を「頭で理解する」だけでなく「口から出せる」ようになることを目指しています。

この本を読み終える頃には、英語の文法が「覚えるもの」ではなく「使えるもの」になっているはずです。難しく考えすぎず、まずは気軽に読み進めていきましょう！英語の世界が、もっと楽しく、もっと身近に感じられるようになるはずです。





“

**It does not matter
how slowly you go
as long as you do
not stop.**

どんなにゆっくり進んでも、
止まりさえしなければ問題ない。

– Confucius

孔子

英語の動詞のルール

be動詞・一般動詞

「状態・アクション」

動詞は、主に「動作」や「状態」を表す単語だよ。英語の動詞には、大きく分けて「be動詞」と「一般動詞」の2種類があります。



be動詞 (状態)

- be動詞は「～です」「～にいる・ある」などを表します。
- 現在の話をする際に使われるbe動詞には **am / is / are** があります。
- be動詞は基本的に物や人の**状態**を表します。



She **is** happy.
(彼女は幸せです。)



This **is** my book.
(これは私の本です。)

一般動詞 (アクション)

- 一般動詞は「走る」「食べる」「話す」などの体を動かす**アクション**を表します。
- 一般動詞は run, eat, watch などが当てはまります。
- 現在の話をする文で、主語が **he / she / it** になる場合は一般動詞に“s”が付きます。(これを日本の義務教育では3単現のsと言う)



I **run** every morning.
(私は毎朝走ります。)



He **eats** a pizza.
(彼はピザを食べます。)

be動詞と一般動詞に“s”が付くルール

be動詞 (am / is / are) の使い方は...

- **I (私) → am**
例：I am happy. (私は幸せです。)
- **He / She / It (1人・1つ) → is**
例：She is a director. (彼女は監督です。)
- **You / We / They (あなた / 複数) → are**
例：They are actors. (彼らは俳優です。)

主語が he / she / it の一般動詞の文章で、現在の話をしている際には一般動詞に“s”が付きます。

- s, sh, ch, x, o で終わる動詞は“es”をつける → watch → watch**es**
- “y” が子音で終わるときは“y”を“ies”に変える → study → studi**es**



I play the piano.
(私はピアノを弾きます。)

→

He **plays** the piano.
(彼はピアノを弾きます。)



They watch TV.
(彼らはテレビを見ます。)

→

She **watches** TV.
(彼女はテレビを見ます。)

ココ注意！

be動詞と一般動詞は基本的には一緒に使えない！



✗ I am eat sushi. (間違い)

○ I eat sushi. (正しい)

○ I am an actor. (正しい)

・「～です」「～にいる・ある」と言いたいならbe動詞

• She **is** an actress.
(彼女は女優です。)

• The camera **is** on the table.
(カメラはテーブルの上にあります。)

• We **are** in the studio.
(私たちはスタジオにいます。)

状態を表すね！



・「～する」と言いたいなら一般動詞

• I **play** the piano.
(私はピアノを弾きます。)

• He **watches** movies every weekend.
(彼は毎週末映画を見ます。)

• They **rehearse** their lines before the show.
(彼らは公演前にセリフをリハーサルします。)

アクションを表すね！



・ be動詞と一般動詞は一緒に使わない

✗ She **is** sings well. (間違い)

○ She **sings** well. (正しい)

✗ He **is** plays soccer. (間違い)

○ He **plays** soccer. (正しい)

・ 主語によって am / is / are が変わる

• I **am** an actor.
(私は俳優です。)

• He **is** my co-star.
(彼は私の共演者です。)

• You **are** very talented.
(あなたはとても才能があります。)

• They **are** backstage.
(彼らは舞台裏にいます。)

・ 現在形の文で主語が "he / she / it" なら、一般動詞に "s" をつける！ (三単現)

• He **likes** acting.
(彼は演技が好きです。)

• She **watches** drama series.
(彼女はドラマシリーズを見ます。)

• It **looks** amazing.
(それは素晴らしく見えます。)

- ① I **am** a teacher.
 (私は先生です。)
 → "am" は be動詞。「私は先生という状態」だから be動詞を使う
- ② She **is** my best friend.
 (彼女は私の親友です。)
 → "is" は be動詞。「彼女＝親友」という関係を示す
- ③ They **are** in the café now.
 (彼らは今、カフェにいる。)
 → "are" は be動詞。「どこにいるのか (状態)」を表す
- ④ He **plays** soccer every weekend.
 (彼は毎週末サッカーをする。)
 → "plays" は一般動詞。「何をするのか (動作)」を表す
- ⑤ We **eat** lunch at 12 PM.
 (私たちは12時に昼ご飯を食べます。)
 → "eat" は一般動詞。「食べる」という動作を表す
- ⑥ My brother **works** at a bookstore.
 (私の兄は本屋で働いています。)
 → "works" は一般動詞。「働く」という動作を表す
- ⑦ She **is** very tired today.
 (彼女は今日はとても疲れている。)
 → "is" は be動詞。「彼女＝疲れている状態」を表す
- ⑧ I **have** a dog.
 (私は犬を飼っている。)
 → "have" は一般動詞。「持っている / 飼っている」という意味
- ⑨ This coffee **is** too hot.
 (このコーヒーは熱すぎる。)
 → "is" は be動詞。「コーヒー＝熱い状態」を表す
- ⑩ My parents **love** watching movies.
 (私の両親は映画を見るのが大好きです。)
 → "love" は一般動詞。「何かを好き」という気持ちを表す

「いつの話？」を決めるルール

過去形・現在形・未来形・進行形

「時制」

英語では、話すときの時間をハッキリさせるために、動詞の形が変わります。「いつの話なのか？」を表すために、過去形・現在形・未来形・進行形を使い分けます。



現在形



～する

- 今のこと
- 習慣
- いつもやっていること

過去形



～した

- 過去に起こったこと

未来形



～する予定だ、～だろう

- これからのこと
- 未来の予定

進行形



～しているところ

- 今していること
- その時していたこと
- これからすること

① 現在形

- ・「**普段のこと**」や「**事実**」を話すときに使います。
- ・一般動詞を使う文章で、主語が **he, she, it** に当てはまる時は**動詞に "s" が付きます**。(三単現)



I **act** in movies.
(私は映画で演技をします。)



He **directs** films.
(彼は映画を監督します。)

② 過去形

- ・「**過去に起こったこと**」を話すときに使います。
- ・過去形には「**規則動詞**」と「**不規則動詞**」があります。



I **acted** in a movie last year.
(私は去年映画に出演しました。)



He **directed** a film.
(彼は映画を監督しました。)

規則動詞と不規則動詞の違い



規則動詞 → 過去形・過去分詞に「-ed」につける
例:

- play → played → played (遊ぶ / 演奏する)
- watch → watched → watched (見る)
- ルールが決まっているから覚えやすい!

不規則動詞 → 「-ed」をつけないで、単語の形が変わる
例:

- go → went → gone (行く)
- see → saw → seen (見る)
- ルールがないので、ひとつずつ覚えるしかない!

③ 未来形

・「これからすること」「**未来の予定**」を話すときに使います。

意志・決意を表すとき → "will"

予定を話すとき → "be going to"

確定している未来 → "be + ing" (進行形で未来を表す)



I **will** act in a new movie next year.
(私は来年、新しい映画に出演します。)



He **is going to** direct a film.
(彼は映画を監督する予定です。)

よくある質問



「will」と「be going to」と「~ing」の違いって何？

→ 結論から言うと、どちらも未来の話なんだけどニュアンスが変わる！



1. will: ニュアンスとして意思や予測、強調を表すよ！例えば、「I will visit my grandparents tomorrow.」は「明日おじいちゃんとおばあちゃんを訪ねるつもり(意思)」を意味する。



2. be going to (gonna): 計画や確実性が高い未来の予定を示すよ！「I am going to start a new job next month.」は「来月、新しい仕事を始める予定」を意味する。



3. -ing形: 近い未来や個人的に確信している予定を言う時に使うよ！例として、「I am meeting my friends at 3 pm.」は「午後3時に友達と会う」を指す。

予定について話す際、ネイティブはほとんど「be going to(gonna)」か「ing形」を使う！

④ 進行形

- ・「今していること」「そのときしていたこと」「これからすること」を話すときに使います。

現在進行形（今している）→ "be動詞 + ing" (I am working.)

過去進行形（その時していた）→ "was / were + ing" (She was practicing.)

未来進行形（その時している予定）→ "will be + ing" (We will be filming.)



I **am acting** in a new drama.
(私は今、新しいドラマに出演しています。)



He **was directing** a film yesterday.
(彼は昨日、映画を監督していました。)



ハチドリくんの 成功体験

空港での小さな親切

空港で迷っている外国人を見かけ、思い切って「Do you need help?」と声をかけた。簡単な道案内だったけど、「You saved my day!」と感謝されてびっくり。英語は難しく考えなくても、ちょっとしたフレーズで人の役に立てると実感した瞬間！

- ・ 現在形は、習慣になっていること/いつも当たり前に行っていること



I practice my lines every day.
(私は毎日セリフを練習します。)



She takes a shower every morning.
(彼女は毎朝シャワーを浴びます。)

- ・ 過去形は基本的には動詞にedを付けるが、不規則に変化する動詞もある



I filmed a commercial last week.
(私は先週、CMを撮影しました。)



不規則変化で *writed* ではなく
wrote になるね！



She wrote a script for the movie.
(彼女は映画の台本を書きました。)

- ・ 未来形は「これからやること」を表現し、3つの使い分けがある

- ・ 意志 / 決意のニュアンスを伝えたいとき → "will"
- ・ 予定を話すとき → "be going to" (ネイティブは、going toをgonnaと略すことが多い)
- ・ 確定している未来 → "be + ing" (進行形で未来を表す)

I will try a new role.
(私は新しい役に挑戦するつもりです。)

She is going to start filming next month.
(彼女は来月、撮影を始める予定です。)

I am visiting LA next month.
(私は来月LAに行きます。)

- ・ 「～している」と言いたいときは **be動詞 + 動詞ing** を使う

I am reading the script.
(私は台本を読んでいます。)

I will be filming all day tomorrow.
(私は明日、一日中撮影をしています。)

I was remembering my lines when the director arrived.
(監督が到着したとき、私はセリフを覚えていました。)

- ① I **wake** up at 7 AM.
 (私は朝7時に起きる)
 → "wake up" は現在形。「普段の習慣」を表している。
- ② I **woke** up at 7 AM yesterday.
 (私は昨日朝7時に起きた)
 → "woke up" は過去形。「昨日」という過去の出来事を表している。
- ③ I **will wake** up at 7 AM tomorrow.
 (私は明日朝7時に起きるつもりだ)
 → "will wake up" は未来形。「強い意志」を表している。
- ④ I **am waking** up early this week for work.
 (私は今週、仕事のために早起きしている)
 → "am waking up" は現在進行形。「一時的な習慣」を表す。
- ⑤ She **studies** English every day.
 (彼女は毎日英語を勉強する)
 → 「日常の習慣」を表している。主語が "she" なので "studies"。
- ⑥ She **studied** English last night.
 (彼女は昨夜英語を勉強した)
 → "studied" は過去形。「昨夜」という具体的な過去の出来事を表している。
- ⑦ She **is going to study** English tomorrow.
 (彼女は明日英語を勉強するだろう)
 → "is going to study" は未来形。「明日する予定」を表している。
- ⑧ She **is studying** English right now.
 (彼女は今まさに英語を勉強している)
 → "is studying" は現在進行形。「今行っている動作」を表している。
- ⑨ They **were watching** a movie when I arrived.
 (私が到着したとき、彼らは映画を見ていた)
 → "were watching" は過去進行形。「その時点で進行中だったこと」を表す。
- ⑩ We **will be traveling** to Osaka next week.
 (私たちは来週大阪へ旅行しているだろう)
 → "will be traveling" は未来進行形。「確定している未来」を表している。

“

**The expert in
anything was
once a beginner.**

どんな専門家でも、
当初は初心者だった。

– Helen Hayes
ヘレン・ヘイズ

「今までのこと・今につながることを話す」

現在完了形

「～したことがある」

英語では、「過去に起こったこと」と「今も続いていること」をつなげて話すときに "have + 過去分詞" を使います。また、これは「継続」「完了」「経験」を表すときに使います。



経験



経験

I **have been** to Kyoto.
(私は京都に行ったことがある。)

完了



完了

I **have just finished** my work.
(私はちょうど仕事を終えたところです。)

継続



継続

I **have lived** in the US for two years.
(私は2年間アメリカに住んでいる。)

この文法の特徴



- 過去と今がつながっているときに使う！
- "have / has + 過去分詞" の形を使う！
- 「経験」「完了」「継続」を表す！

① 経験 (～したことがある)

- I **have met** a famous actor.
(私は有名な俳優に会ったことがある。)
- **Have you** ever tried acting?
(演技をしたことがありますか?)

疑問文の時



- ・疑問文の場合は have / has を最初に持ってくる!

② 完了 (ちょうど～した / もう～した / まだ～していない)

- I **have just finished** reading the script.
(私はちょうど台本を読み終えたところです。)
- She **hasn't arrived** yet.
(彼女はまだ到着していません。)

has ・ 否定文



- ・主語が he / she / it になる場合は has になるよ!
- ・否定文の場合は have / has の後に not を置くよ!

③ 継続 (ずっと～している)

- They **have lived** in Tokyo for five years.
(彼らは5年間東京に住んでいる。)
- I **have been studying** English since last year.
(私は去年から英語を勉強しています。)

been



- ・been は be動詞の過去分詞形だよ!

・「have / has + 過去分詞」の形で作る



I have been to Japan.
(私は日本に行ったことがある。)



He has seen that movie before.
(彼はその映画を前に見たことがある。)

・「I, you, we, they」には "have"、「he, she, it」には "has" を使う



I have played soccer before.
(私はサッカーをしたことがある。)



She has eaten lunch.
(彼女はお昼ご飯を食べた。)

・「具体的な時間」があるときは過去形

○ I visited my grandma yesterday. (昨日、おばあちゃんを訪ねた。)

✗ I have visited my grandma yesterday.

(間違い！"yesterday" は具体的な時間だから現在完了とは合わない！)

- ① I **have visited** Kyoto twice.
 (私は京都に2回行ったことがある)
 → "have visited" は現在完了形。「今までに経験したこと」を表す
- ② **Have you ever tried** sushi?
 (あなたは寿司を食べたことがありますか)
 → "Have you ever ~?" は「今までに〇〇したことがある？」と経験を聞く
- ③ She **has just finished** her homework.
 (彼女はちょうど宿題を終えたところです)
 → "has just finished" は「ちょうど〇〇したばかり」という完了の意味を表す
- ④ We **haven't started** the meeting yet.
 (私たちはまだミーティングを始めていない)
 → "haven't started yet" で「まだ〇〇していない」という未完了の意味を表す
- ⑤ He **has lived** in Tokyo for five years.
 (彼は5年間東京に住んでいる)
 → "has lived" は「過去から今までずっと続けていること」を表す
- ⑥ They **have been studying** English since last year.
 (彼らは去年から英語を勉強し続けている)
 → "have been studying" は「過去から現在まで続けている動作」を強調する
- ⑦ I **have already seen** that movie.
 (私はその映画をすでに見たことがある)
 → "have already seen" で「すでに〇〇した」という完了の意味を表す
- ⑧ **Have you ever worked** abroad?
 (あなたは海外で働いたことがありますか)
 → "Have you ever ~?" は「経験」を聞く表現
- ⑨ She **has never spoken** in front of a large audience.
 (彼女は大勢の前で話したことがない)
 → "has never spoken" は「一度も〇〇したことがない」という否定の経験
- ⑩ The rain **has stopped**.
 (雨がやんだ)
 → "has stopped" は「今ちょうど終わった」ことを表す

文の形を変える方法（否定・質問）

否定形・疑問文

「～ではない・～ですか？」

英語の文は、基本のふつうの文から「否定形」や「疑問文」に変えることができます。



ふつうの文



I like this movie.
(この映画が好きです。)

- ~です
- ~する

否定形



I **do not** like this movie.
(この映画が好きではありません。)

- ~ではない
- ~しない

疑問文



Do you like this movie?
(この映画が好きですか?)

- ~ですか?
- ~しますか?

ルールについて



実は、否定形も疑問文も「be動詞の文」と「一般動詞の文」で作りが違います。でも、ルールは超シンプルなので安心してください！

一般動詞の否定形・疑問文の作り方

- 一般動詞 (play, eat, go など) があるときは、"do not" (短縮形: don't) を使います。
- 主語が "he / she / it" のときは "does not" (短縮形: doesn't) を使います。

ふつうの文: I play the piano. (私はピアノを弾きます。)

否定文: I **do not** play the piano. (私はピアノを弾きません。)

疑問文: **Do you** play the piano? (あなたはピアノを弾きますか?)

ふつうの文: He watches TV. (彼はテレビを見ます。)

否定文: He **does not** watch TV. (彼はテレビを見ません。)

疑問文: **Does he** watch TV? (彼はテレビを見ますか?)

does を使う時



「does」があるときは、動詞の "s" を取るのを忘れずに！

- ✗ Does he watches TV? (間違い)
- Does he watch TV? (正しい)

be動詞の否定形・疑問文の作り方

- be動詞 (am, is, are) があるときは、"not" をつけるだけでOKです。
- 疑問文は **be動詞**を文の先頭に持ってきます。

ふつうの文: I am an actor. (私は俳優です。)

否定文: I **am not** an actor. (私は俳優ではありません。)

疑問文: **Am I** an actor? (私は俳優ですか?)

- be動詞のときは直後に"not"をつけるだけ

She is not my manager.
(彼女は私のマネージャーではありません。)

They are not on set right now.
(彼らは今、撮影現場にいません。)

- be動詞の疑問文は"be動詞"を先頭に持ってくるだけ

Is she your manager?
(彼女はあなたのマネージャーですか?)

Are they ready for the rehearsal?
(彼らはリハーサルの準備ができていますか?)

- 一般動詞のときは"do not" (don't) か "does not" (doesn't) を使う

I do not like horror movies.
(私はホラー映画が好きではありません。)

They do not watch TV often.
(彼らはあまりテレビを見ません。)

She does not rehearse in the morning.
(彼女は朝にリハーサルをしません。)

主語が "He / She / It" のときは
"does not" (doesn't) を使う！



- "does" を使うときは、動詞の"s"を取る

He does not like action movies.
(彼はアクション映画が好きではありません。)

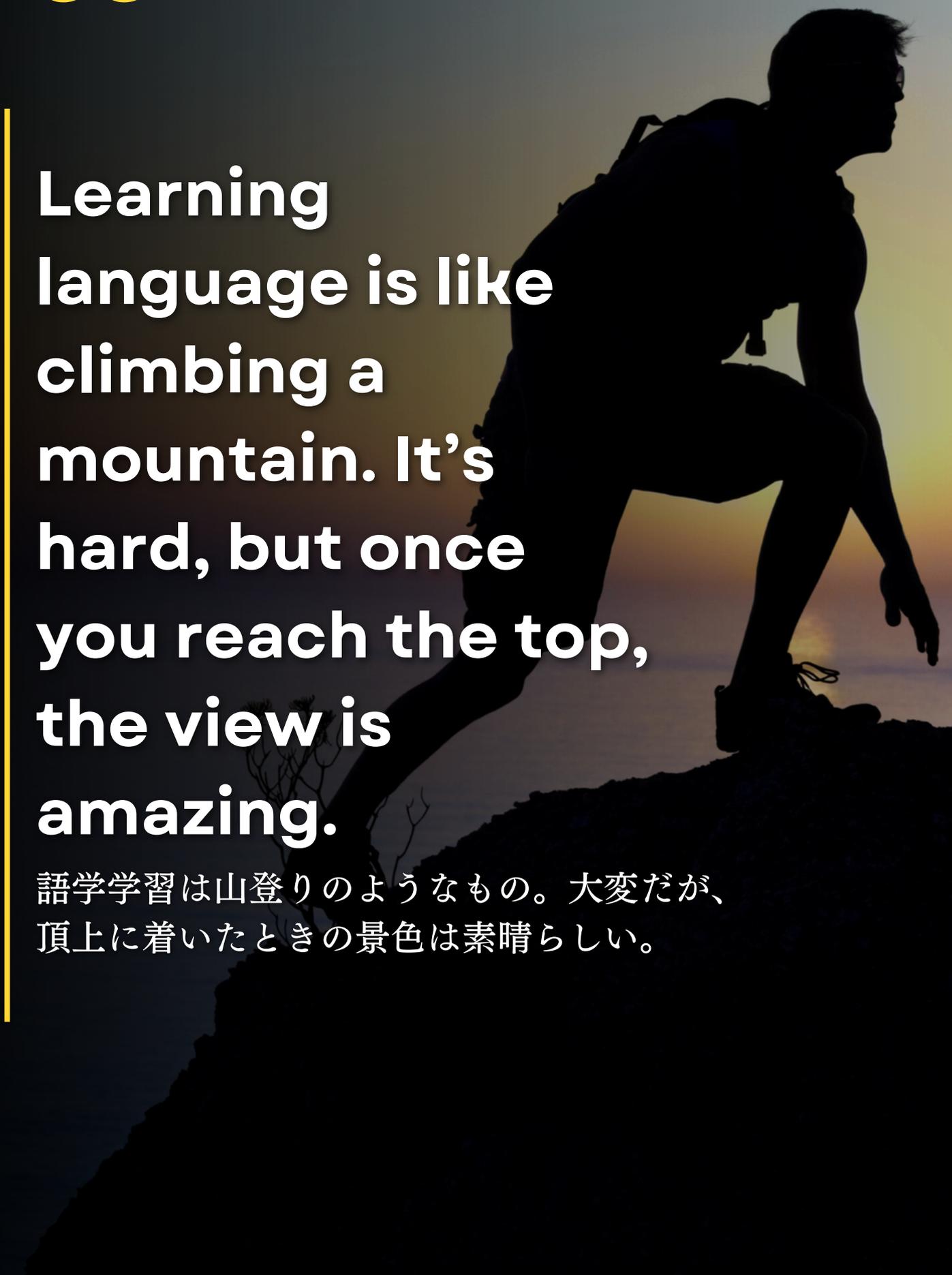
Does she know the director?
(彼女はその監督を知っていますか?)

- ① I **don't like** coffee.
 (私はコーヒーが好きではない)
 → "don't like" は一般動詞の否定。「～ではない」と言いたいときに使う
- ② She **doesn't watch** TV.
 (彼女はテレビを見ない)
 → "doesn't watch" は主語が "she" の場合の否定形
- ③ They **didn't go** to the party.
 (彼らはパーティーに行かなかった)
 → "didn't go" は過去形の否定。「～しなかった」と言いたいときに使う
- ④ He **isn't** at home.
 (彼は家にいない)
 → "isn't" は be動詞の否定形。「～ではない」と言うときに使う
- ⑤ We **weren't late** for the meeting.
 (私たちはミーティングに遅れなかった)
 → "weren't" は過去の be動詞 "was / were" の否定形
- ⑥ **Do you like** sushi?
 (あなたは寿司が好きですか)
 → 一般動詞の疑問文は "Do / Does" を文の最初に置く
- ⑦ **Does he play** soccer?
 (彼はサッカーをしますか)
 → 主語が "he / she / it" の場合は "Does + 動詞の原形" で質問する
- ⑧ **Did she watch** the movie?
 (彼女はその映画を見ましたか)
 → 過去の疑問文は "Did + 動詞の原形" を使う
- ⑨ **Are they** students?
 (彼らは学生ですか)
 → be動詞の疑問文は "be動詞" を文の最初に置く
- ⑩ **Was it** cold yesterday?
 (昨日は寒かったですか)
 → 過去の be動詞の疑問文は "Was / Were" を文の最初に置く

“

Learning language is like climbing a mountain. It's hard, but once you reach the top, the view is amazing.

語学学習は山登りのようなもの。大変だが、頂上に着いたときの景色は素晴らしい。



「○○される」の文の作り方

受け身の文

「～される・～された」

受け身の文は、「誰がしたか」よりも「何がされたか」に注目する文の形です。例えば、「誰かがドアを開けた」なら、「ドアが開けられた」と表現できます。このとき、「～された」という形を使うのがポイントです。



ふつうの文



She **eats** an apple.
(彼女がりんごを**食べる**)

受け身の文



An apple **is eaten** by her.
(りんごが彼女によって**食べられる**)

受け身の文の特徴



- 「主語 + be動詞 + 動詞の過去分詞形」になるのが受け身の文の特徴！
- この文で「～される」「～された」という「受け身」の意味になるよ！
- 受け身の文では、「～によって」という意味合いの「by～」を使うことが多いよ！

現在形の受け身の文



ふつうの文: The crew films the scene. (スタッフがシーンを撮影する。)

受け身の文: The scene **is filmed** by the crew. (シーンはスタッフに撮影される。)

過去形の受け身の文



ふつうの文: The director gave me a role. (監督が私に役をくれた。)

受け身の文: I **was given** a role by the director. (私は監督に役を与えられた。)

未来形の受け身の文



ふつうの文: They will announce the winner. (彼らは優勝者を発表する。)

受け身の文: The winner **will be announced**. (優勝者が発表される。)

進行形の受け身の文



ふつうの文: He is washing the car. (彼が車を洗っています。)

受け身の文: The car **is being washed** by him. (車は彼によって洗われています。)

• 受け身の文の基本形は「be動詞 + 過去分詞」

- The movie was directed by a famous filmmaker.
(その映画は有名な映画監督によって監督されました。)

• 「by ~」をつけると、誰がやったのかを強調できる

- This script was written by a well-known writer.
(この台本は有名な作家によって書かれました。)

• 一般動詞は「過去分詞」にする！不規則動詞の変化にも注意

- The role was given to a talented newcomer.
(その役は才能のある新人に与えられました。)
- The film was made in Hollywood.
(その映画はハリウッドで作られました。)

不規則動詞をまとめた表は
111ページをチェック！



• 進行形の受け身の文は「be動詞 + being + 過去分詞」になる

- The scene is being filmed right now.
(そのシーンは今、撮影されています。)
- The costumes were being prepared before the show.
(衣装はショーの前に準備されていました。)

- 1 The movie **was directed** by a famous filmmaker.
 (その映画は有名な映画監督によって監督された)
 → "was directed" は「～された」という受け身の形
- 2 The tickets **were sold** out quickly.
 (チケットはすぐに売り切れた)
 → "were sold out" は「売られてなくなった」ことを表す
- 3 This cake **was made** by my grandmother.
 (このケーキは私の祖母によって作られた)
 → "was made" は「作られた」という受け身の形
- 4 The letters **were sent** yesterday.
 (手紙は昨日送られた)
 → "were sent" は「送られた」という意味
- 5 The decision **has been made**.
 (その決定は下された)
 → "has been made" は「決定された (今もその状態)」を表す現在完了の受け身
- 6 A new law **was implemented** last year.
 (新しい法律が昨年導入された)
 → "was implemented" は「導入する」の受け身
- 7 The report **will be submitted** tomorrow.
 (その報告書は明日提出される予定だ)
 → "will be submitted" は未来形の受け身「提出されるだろう」
- 8 A new school **is being built** near my house.
 (私の家の近くに新しい学校が建設中だ)
 → "is being built" は「今まさに建てられている」の現在進行形の受け身
- 9 The project **had been completed** before the deadline.
 (そのプロジェクトは締め切り前に完了していた)
 → "had been completed" は「完了していた」ことを表す過去完了の受け身
- 10 The package **was delivered** in the morning.
 (荷物は午前中に配達された)
 → "was delivered" は「配達された」という受け身の形

「できる・しなきゃ」の文の作り方

助動詞

「～できる・～しなきゃ」

助動詞は、動詞に意味を付け加えて、「～できる」「～すべき」「～かもしれない」などのニュアンスを表す言葉です。例えば、「走る」だけだと普通の動作ですが、「走れる」とすると可能、「走るべき」とすると必要・義務の意味になります。



You **should** wake up.
(起きたほうがいいよ。)



He **must** be tired.
(彼は疲れているに違いない。)



He **can** drive well.
(彼女はうまく運転できる。)



I **would** like some coffee.
(コーヒーをいただきたいです。)



May I sit here?
(ここに座ってもいいですか?)



She **might** call later.
(彼女は後で電話するかもしれない。)

助動詞の文の特徴



- 助動詞は「動詞の意味を補助する役割」
- 助動詞の後は、絶対に「動詞の原形」が来る！

① 可能性・能力を表す助動詞

can (～できる)

I **can** memorize lines quickly. (私はセリフをすぐに覚えられます。)

Can you dance? (あなたは踊れますか?)

could (～できた / ひょっとすると～かもしれない)

I **could** play the piano when I was a child. (私は子どもの頃ピアノを弾けました。)

It **could** rain tomorrow. (明日は雨が降るかもしれません。)

② 義務・アドバイスを表す助動詞

should (～すべき / ～したほうがいい)

You **should** practice more. (あなたはもっと練習したほうがいい。)

She **should** be here by now. (彼女はもうここにいるはずです。)

must (～しなければならない / ～に違いない)

You **must** arrive on time. (時間通りに到着しなければなりません。)

He **must** be the director. (彼が監督に違いありません。)

must と have to の違い



must ➤ 話し手の強い気持ち (絶対にやるべき!)

have to ➤ は ルールや義務 (やらなきゃいけない決まりがある)

③ 許可・禁止を表す助動詞

may (～してもよい / ひょっとすると～かもしれない)

May I use this microphone? (このマイクを使ってもいいですか?)

He **may** be late. (彼は遅れるかもしれません。)

might (～するかもしれない)

It **might** snow tonight. (今夜雪が降るかもしれません。)

She **might** not come to the event. (彼女はイベントに来ないかもしれません。)

must not (～してはいけない)

You **must not** be late. (遅刻してはいけません。)

We **must not** talk during the scene. (シーンの間は話してはいけません。)

④ 意志・勧誘を表す助動詞

will (～するつもり / 未来を表す)

I **will** perform in a new movie. (私は新しい映画に出演するつもりです。)

Will you join us for dinner? (夕食を一緒にどうですか?)

shall (～しましょうか?)

Shall we start the rehearsal? (リハーサルを始めましょうか?)

I **shall** return. (私は戻るつもりです。)

would (～するつもりだった / ～でしょう)

I **would** love to work with her. (私は彼女と一緒に仕事がしたいです。)

Would you like some coffee? (コーヒーはいかがですか?)

助動詞の後は動詞の原形

- She can sing beautifully.
(彼女は美しく歌うことができます。)



動詞に“s”は必要？

主語が he / she / it に当てはまる現在形の文の時でも助動詞を使う場合は動詞に“s”は付かない！

"must" は「強い義務」、"have to" は「ルールや決まり」

- You must finish the scene today.
(あなたは今日このシーンを終わらせなければならない。)
- We have to wear costumes for the play.
(私たちは劇のために衣装を着なければならない。)

"may" より "might" のほうが可能性が低く、より丁寧でやや控えめになる

- It may rain tomorrow.
(明日は雨が降るかもしれません。)
- She might not come to the premiere.
(彼女はプレミアに来ないかもしれません。)

"shall" はイギリスで良く使われ、フォーマルな場面で使うこともある

- Shall we start the rehearsal?
(リハーサルを始めましょうか?)

- ① I **can** ride a bike.
 (私は自転車に乗れる)
 → "can" は「～できる」という能力を表す助動詞
- ② You **must** wear a seatbelt.
 (シートベルトをしなければならない)
 → "must" は「強い義務やルール」を表す
- ③ I **could** swim when I was a child.
 (私は子どもの頃、泳げた。)
 → "could" は「過去にできたこと」を表す。
- ④ You **may** leave now.
 (もう帰ってもいいよ)
 → "may" は「～してもよい」という許可を表す
- ⑤ **Can** I use your phone?
 (携帯を使ってもいいですか?)
 → "Can I ~?" はカジュアルな「～してもいい?」
- ⑥ You **should** get some rest.
 (少し休んだほうがいいよ)
 → "should" は「アドバイスや助言」を表す
- ⑦ You **had better** take an umbrella.
 (傘を持っていったほうがいいよ)
 → "had better" は「強めのアドバイス・警告」を表す
- ⑧ She **might** be late.
 (彼女は遅れるかもしれない)
 → "might" は「可能性が低めの予測」
- ⑨ It **may** snow tomorrow.
 (明日は雪が降るかもしれない)
 → "may" は「可能性があること」を表す
- ⑩ **Would** you like to join us for dinner?
 (夕食をご一緒しませんか?)
 → ("Would you like to ~?" は丁寧な誘い方)



“

**Never make fun
of someone who
speaks broken
English. It means
they know
another language,**

片言の英語を話す人を馬鹿にしてはいけない。
彼らは他の言語を知っているということだよ。

– Jackson Brown, Jr.

ジャクソン・ブラウン・ジュニア

"would" って何？

would

「would」

英語では「～だろう」「～したい」「昔よく～していた」など、いろんな場面で "would" を使います。これは「もし～なら」「過去の習慣」「丁寧な表現」などを表すときに便利な言葉です。

Would?

もし～なら



I **would** go if I had time.
(もし時間があれば行くのに。)

過去の習慣



When I was a kid, I **would** play outside every day.
(子どもの頃、私は毎日外で遊んでいた。)

① 依頼や丁寧な表現 (Would you ~?)

➤ お願いごとや、丁寧に聞きたいときに使う

- **Would you** help me with this scene?
(このシーンを手伝ってくれますか?)
- **Would you** like to join us for dinner?
(夕食にご一緒しませんか?)

② 丁寧な提案 (Would you consider ~?)

➤ 「~してみるのはいかがでしょうか？」と提案するときに使う

- **Would you consider** trying a different approach?
(別のアプローチを試してみるのはいかがでしょうか?)
- **Would you consider** postponing the meeting?
(ミーティングを延期するのはいいですか?)

③ 丁寧な断り (本当はやりたいけど…)

➤ 「本当はしたいけど…」とやんわり断るときに使う

- I really **would** like to go, but I'm too busy.
(本当に行きたいのですが、忙しすぎます。)
- I **would** love to help, but I have another meeting.
(手伝いたいけど、別のミーティングがあるんです。)

④ 仮定や推測 (もし～なら、～するだろう)

➤ 「もし～なら」「～だったら」と、仮の話をするときに使う！

- If I were you, I **would** rehearse more.
(もし私があなたなら、もっとリハーサルをします。)
- If she got the audition, she **would** be so happy.
(もし彼女がオーディションに受かったら、とても喜ぶだろう。)

⑤ 過去の習慣 (昔よく～していた)

➤ 「昔はよく～していた」と言いたいときに使う！

- When I was younger, I **would** watch movies every weekend.
(若い頃、毎週末映画を見ていました。)
- He **would** always practice before auditions.
(彼はオーディション前にいつも練習していた。)



ハチドリくんの 成功体験

「Where are you from？」からの友情

海外のカフェで座っていたら、「Where are you from？」と話しかけられた。そこから日本の話をして、気づけば30分以上も会話が続いていた。英語が流暢じゃなくても、興味を持ってもらえたら会話は広がる！旅先の出会いは本当に特別。

・「お願い」や「丁寧な誘い」に使う

- Would you like to read the script together?
(台本を一緒に読みませんか?)

・「やんわり提案」するときを使う

- Would you consider changing the schedule?
(スケジュールを変更するのはどうでしょう?)

・「本当はやりたいけど、難しい」と丁寧に断るときを使う

- I would love to go, but I have a meeting.
(行きたいけど、ミーティングがあるんです。)

・「もし~なら」と仮の話をするときに使う

- If I were a director, I would cast her in the lead role.
(もし私が監督なら、彼女を主役にするだろう。)

・「昔はよく~していた」と過去の習慣を話す

- When we were students, we would rehearse late at night.
(学生の頃、私たちは夜遅くまでリハーサルをしていた。)

- ① **Would** you like some coffee?
 (コーヒーはいかがですか?)
 → "Would you like ~?" は「~はいかがですか?」の丁寧な言い方
- ② **Would** you help me with this?
 (これを手伝ってもらえますか?)
 → "Would you ~?" は「~してもらえますか?」の丁寧な依頼
- ③ I **would** love to go, but I'm busy today.
 (行きたいんだけど、今日は忙しいんだ。)
 → "I would love to ~" は「ぜひ~したい」
- ④ If I were you, I **would** take the job.
 (もし私があなたら、その仕事を引き受ける。)
 → "If I were ~, I would ~" は「もし私が〇〇なら、~するだろう」の仮の話
- ⑤ If she practiced more, she **would** improve.
 (もし彼女がもっと練習すれば、上達するだろう。)
 → "would" を使うと、現実とは違う想像の話ができる
- ⑥ When I was a child, I **would** play outside every day.
 (子どものころ、私は毎日外で遊んでいた。)
 → "would" は「昔よく~していた」過去の習慣を表す
- ⑦ He **would** always tell funny stories at dinner.
 (彼はいつも夕食のときに面白い話をしていた。)
 → "would always ~" で「昔よく~していた」ことを強調
- ⑧ **Would** it be okay if we discussed this later?
 (あとでこの話をしてもいいですか?)
 → "Would it be okay if ~?" は「~してもいいですか?」の丁寧な確認
- ⑨ That **would** be amazing!
 (それはすごいことになりそう!)
 → "That would be ~" は「~になりそう」「~だろうね」の仮の話
- ⑩ **Would** you mind waiting here for a moment?
 (少しの間、ここで待っていただけますか?)
 → 「~してもらってもいいですか?」の丁寧なお願い

「どんな人？どんな物？」を説明する文

関係代名詞

「どんな人？どんな物？」

関係代名詞を使うと、2つの文を1つにまとめて、どんな人・物なのかを説明できるようになります。



I have a friend.

(私は友だちがいます。)



He lives in Tokyo.

(その子は東京に住んでいます。)



I have a friend **who** lives in Tokyo.

(東京に住んでいる友だちがいます。)

この文法の特徴



- 2つの文をつなげて、スムーズに説明ができる！
- 「〇〇な人・物」という表現を作るときにとっても便利！

① 人について説明する (who)

人を詳しく説明するときに使います。

➤ 2つの文をつなげる前

She is the actress. She won the award.

(彼女は女優です。彼女はその賞を受賞しました。)

➤ 関係代名詞 who を使って1つの文にできます。

She is the actress **who** won the award.

(彼女はその賞を受賞した女優です。)

関係代名詞は、「説明したい名詞」のすぐ後ろにつける！



② 物・動物について説明する (which)

物・動物を詳しく説明するときに使います。

➤ 2つの文をつなげる前

This is the script. I wrote it.

(これは台本です。私はそれを書きました。)

➤ 関係代名詞 which を使って1つの文にできます。

This is the script **which** I wrote.

(これは私が書いた台本です。)

③ 人・物・動物どれにも使える (that)

who / which の代わりにカジュアルに使えます。

➤ 2つの文をつなげる前

I met a director. The director inspired me.

(私は監督に会いました。その監督は私に影響を与えました。)

➤ 関係代名詞 that を使って1つの文にできます。

I met the director **that** inspired me.

(私に影響を与えた監督に会いました。)

・ 「どんな人？」 「どんな物？」 を説明するときに関係代名詞を使う

- ・ I have a friend who is an actor.
(私には俳優をしている友達があります。)
- ・ This is the movie which won an award.
(これは賞を受賞した映画です。)

・ who は人、which は物や動物、that は人・物どちらもOK

- ・ She is the actress who played the main role.
(彼女は主演を演じた女優です。)
- ・ This is the book which I borrowed from the library.
(これは私が図書館から借りた本です。)
- ・ He is the director that made this film.
(彼はこの映画を作った監督です。)

・ 関係代名詞を省略できる / できない時の見分け方

- ・ 関係代名詞の後ろにすぐ動詞が来る → 省略できない！
I met a director who works in Hollywood. (○ 正しい)
I met a director works in Hollywood. (間違い！)
- ・ 関係代名詞の後ろに **主語 + 動詞** がある → 省略できる！
This is the book (that) **I borrowed** from the library. (省略OK)

- ① This is the book **that** I borrowed from the library.
 (これは私が図書館から借りた本です。)
 → "that" は「どの本か？」を説明している
- ② I met a person **who** speaks three languages.
 (私は3か国語を話せる人に会った。)
 → "who" は「どんな人か？」を説明している
- ③ She adopted a dog **which** was abandoned.
 (彼女は捨てられた犬を引き取った。)
 → "which" は「どの犬か？」を説明している
- ④ The teacher **who** taught me English was very kind.
 (私に英語を教えてくれた先生はとても親切だった。)
 → "who" は「どの先生か？」を説明している
- ⑤ The house **that** they live in is very old.
 (彼らが住んでいる家はとても古いです。)
 → "that" は「どんな家か」を説明している
- ⑥ The girl **who** is singing on stage is my sister.
 (ステージで歌っている女の子はわたしの妹です。)
 → "who" は「女の子」を説明している。
- ⑦ The cake **that** he made was delicious.
 (彼が作ったケーキは美味しかった。)
 → "that" は「どのケーキか？」を説明している。
- ⑧ The car **that** she bought is very expensive.
 (彼女が買った車はとても高い。)
 → "that" は「どの車か？」を説明している。
- ⑨ The painting **which** he created became famous.
 (彼が描いた絵は有名になった。)
 → "which" は「どの絵か？」を説明している。
- ⑩ The child **who** won the contest was very happy.
 (コンテストで優勝した子どもはとても喜んでいた。)
 → "who" は「どの子どもか？」を説明している。

“

**Believe
you can
and
you're
halfway
there.**

自分にできると信じれば、
それだけで半分達成したも同然だ。

– Theodore Roosevelt
セオドア・ルーズベルト

「いつ？どこ？なぜ？」を説明する文

関係副詞

「いつ？どこ？なぜ？」

関係副詞を使うと、「いつ」「どこ」「なぜ」を説明する2つの文を1つにまとめることができます。



I remember the day.

(私はその日を覚えています。)



I met you then.

(そのとき、あなたに会いました。)



I remember the day **when I met you.**

(あなたに会った日のことを覚えています。)

この文法の特徴



➤ 2つの文をつなげて、「いつ？どこ？なぜ？」をスムーズに説明できる！

① 理由を表す (why)

「なぜ？」を説明するときに使います。

➤ 2つの文をつなげる前

I know the reason. You are angry for that reason.

(私はその理由を知っています。あなたが怒っているのは、その理由のせいです。)

➤ 関係副詞 why を使って1つの文に

I know the reason **why** you are angry.

(私はあなたが怒っている理由を知っています。)

② 時を表す (when)

「いつ？」を説明するときに使います。

➤ 2つの文をつなげる前

I remember the day. I met you then.

(私はその日を覚えています。そのとき、あなたに会いました。)

➤ 関係副詞 when を使って1つの文にできます。

I remember the day **when** I met you.

(私はあなたに会った日のことを覚えています。)

on which



➤ "when" の代わりに "on which" も使える！

I remember the day on which I met you. (フォーマルな言い方)

③ 場所を表す (where)

「どこ？」を説明するときに使います。

➤ 2つの文をつなげる前

This is the studio. We filmed the scene there.

(ここがそのスタジオです。そこで私たちはシーンを撮影しました。)

➤ 関係副詞 where を使って1つの文に！

This is the studio where we filmed the scene.

(ここが私たちがシーンを撮影したスタジオです。)

Which の代わりになるフレーズ



"where" の代わりに "in which" や "that ... in" も使える！

This is the studio in which we filmed the scene. (フォーマル)

This is the studio that we filmed the scene in. (カジュアル)

ここがポイント！

・ 関係代名詞と関係副詞の違い

- I have a friend who is an actor.
(私には俳優をしている友達があります。)
- This is the movie which won an award.
(これは賞を受賞した映画です。)

形容詞のような使い方をする！



- ① I remember the day **when** I got my first role.
(私は初めて役をもらった日のことを覚えています。)
→ ("when" を使って「いつ?」を説明)
- ② That was the year **when** I started learning English.
(それは私が英語を学び始めた年だった。)
→ "when" は「どの年か?」を説明している
- ③ I don't understand the reason **why** he left so suddenly.
(彼がそんなに急に去った理由がわかりません。)
→ ("why" を使って「なぜ?」を説明)
- ④ This is the place **where** we had lunch.
(ここが私たちがランチを食べた場所です。)
→ "where" は「どこ?」を説明している
- ⑤ The hotel **where** we stayed was very comfortable.
(私たちが泊まったホテルはとても快適だった。)
→ "where" は「どのホテルか?」を説明している
- ⑥ I don't understand the reason **why** she is upset.
(彼女が怒っている理由がわからない。)
→ "why" は「なぜ?」を説明している
- ⑦ This is the restaurant **where** we had dinner with the cast.
(ここが私たちがキャストと一緒に夕食を食べたレストランです。)
→ ("where" を使って「どこ?」を説明)
- ⑧ That's the reason **why** I decided to quit my job.
(それが私が仕事を辞めることを決めた理由です。)
→ "why" は「どんな理由か?」を説明している
- ⑨ The moment **when** she walked in, everyone stared at her.
(彼女が入ってきた瞬間、みんなが彼女を見た。)
→ "when" は「どの瞬間か?」を説明している
- ⑩ Can you explain the reason **why** you were late?
(あなたが遅れた理由を説明できますか?)
→ "why" は「なぜ?」を説明している

「～している / ～された」を説明する文

分詞構文

「～している / ～された」

この文法は、「～しながら」「～なので」「～すると」などの状況や理由を短く伝える方法です。「When (～するとき)」「Because (～だから)」「If (もし～なら)」などを使わずに、文をスッキリさせることができます



ふつうの文と分詞構文



When she heard the news, she started crying.
(そのニュースを聞いた時、彼女は泣き始めた。)

↓分詞構文にすると

Hearing the news, she started crying.

意味は変えずに、文章を短くできるのがポイント

① 時間 (～するとき)

ふつうの文：When she heard the news, she started crying.

分詞構文：**Hearing** the news, she started crying.

日本語訳：そのニュースを聞いた時、彼女は泣き始めた。

② 理由 (～なので)

ふつうの文：Because she was not feeling well, she decided to skip the audition.

分詞構文：**Not feeling** well, she decided to skip the audition.

日本語訳：体調が悪かったので、彼女はオーディションを欠席することにした。

③ 結果 (～の結果、そして)

ふつうの文：The storm passed, and it left the streets flooded.

分詞構文：The storm passed, **leaving** the streets flooded.

日本語訳：嵐が通り過ぎ、通りは水浸しになった。

受け身形としても使われる！



④ 条件 (もし～なら / ～の場合)

ふつうの文：If you are given enough time, you can finish the project.

分詞構文：**Given** enough time, you can finish the project.

日本語訳：もし十分な時間が与えられたならば、あなたはそのプロジェクトを終えられる。

⑤ 同時進行 (～しながら)

ふつうの文：She walked into the room, and she was carrying a cup of coffee.

分詞構文：She walked into the room, **carrying** a cup of coffee.

日本語訳：彼女はコーヒーを持ちながら部屋に入った。

⑥ 対比 (～ながら / だけれども)

ふつうの文：She knew it was risky, but she still took the job.

分詞構文：**Knowing** it was risky, she still took the job.

日本語訳：それがリスクの高いことだと知りながら、彼女はその仕事を引き受けた。

進行中の動作なら「～ing」、受け身なら「過去分詞」を使う

- Standing on stage, she felt the audience's energy.
(ステージに立ちながら、彼女は観客のエネルギーを感じた。)
- Surrounded by cameras, he smiled confidently.
(カメラに囲まれながら、彼は自信を持って微笑んだ。)

「not + ～ing」で「～しないで」の意味も作れる

- Not knowing the answer, he stayed quiet.
(答えがわからなかったので、彼は黙っていた。)
- Not wanting to be late, she left early.
(遅れたくなかったので、彼女は早めに出発した。)



ハチドリくんの 成功体験

初めての英語プレゼン

昔は英語のプレゼンなんて無理だと思っていた。でも、準備を重ね、シンプルな英語で伝える練習を続けた結果、海外のクライアントにしっかり内容が伝わった！最後に「Great presentation!」と言われた瞬間、努力が報われたと感じた。

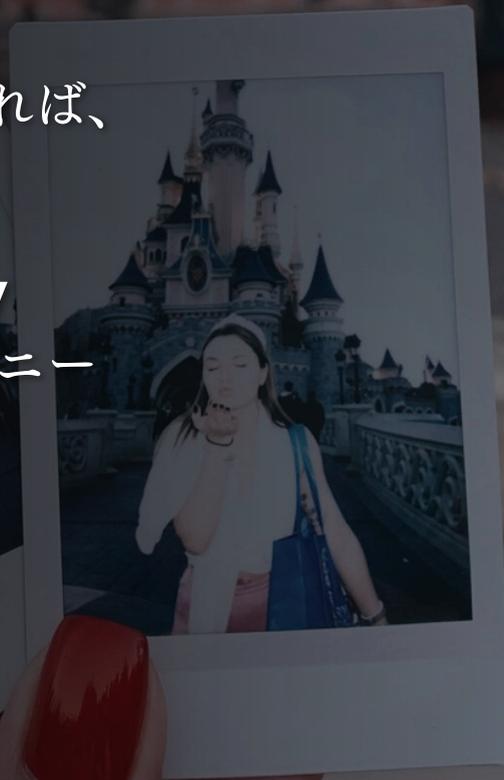
- ① **Feeling** nervous, she took a deep breath before speaking.
 (緊張しながら、彼女は話す前に深呼吸をした。)
 → 「Because she felt nervous, she took a deep breath.」 をスムーズに
- ② **Hearing** the news, she started crying.
 (そのニュースを聞いて、彼女は泣き始めた。)
 → 「When she heard the news, she started crying.」 と同じ意味。
- ③ The storm passed, **leaving** the streets flooded.
 (嵐が通り過ぎ、その結果通りは水浸しになった。)
 → 「The storm passed, and it left the streets flooded.」 と同じ意味。
- ④ **Surrounded** by cameras, he smiled confidently.
 (カメラに囲まれながら、彼は自信を持って微笑んだ。)
 → 「He was surrounded by cameras, and he smiled confidently.」 を短く
- ⑤ **Not knowing** the answer, he stayed quiet.
 (答えがわからなかったなので、彼は黙っていた。)
 → 「Because he didn't know the answer, he stayed quiet.」 をシンプルに
- ⑥ **Not wanting** to be late, she left early.
 (遅れたくなかったなので、彼女は早めに出発した。)
 → 「Because she didn't want to be late, she left early.」 を短縮
- ⑦ **Given** enough time, you can finish the project.
 (もし十分な時間が与えられれば、そのプロジェクトを終えられる。)
 → 「If you are given enough time, you can finish the project.」 と同じ意味。
- ⑧ **Knowing** it was risky, she still took the job.
 (それがリスクの高いことだと知りながら、彼女はその仕事を引き受けた。)
 → 「Although she knew it was risky, she still took the job.」 と同じ意味。
- ⑨ **Judging** from his reaction, he didn't like the food.
 (彼の反応からすると、彼は食事を気に入らなかった。)
 → "Judging from" は「～から判断すると」の意味。
- ⑩ **Not paying** attention, he missed his cue.
 (注意を払わなかったなので、彼は合図を見逃した。)
 → 「Because he wasn't paying attention, he missed his cue.」 を短く

“

If you can
dream it,
you can
do it.

夢を描くことができれば、
それは実現できる。

– **Walt Disney**
ウォルト・ディズニー



5W1Hを使う疑問文

WH疑問文

「なぜ?どこ?いつ?」

英語には「何?」「誰?」「どこ?」「いつ?」「なぜ?」「どのように?」などの質問をするために使われているフレーズがあります。



What is your name?
(あなたの名前は何か?)



Where do you live?
(あなたはどこに住んでいますか?)



Why are you late?
(なぜ遅れたのですか?)



When is the audition?
(オーディションはいつですか?)



Who is your favorite actor?
(あなたの好きな俳優は誰ですか?)



How do you memorize your lines?
(あなたはどのようにセリフを覚えますか?)

① 「何？」を聞く (What)

➤ 「物」や「こと」について質問するときに使います。

- What is your favorite movie ?
(あなたの好きな映画は何ですか?)
- What do you do ?
(あなたの仕事は何ですか?)
- What kind of roles do you like ?
(どんな役が好きですか?)

② 「誰？」を聞く (Who)

➤ 「人」について質問するときに使います。

- Who is your acting coach ?
(あなたの演技のコーチは誰ですか?)
- Who do you admire the most ?
(あなたが最も尊敬する人は誰ですか?)
- Who wrote this script ?
(この台本を書いたのは誰ですか?)

主語の "Who"



「誰が」が主語の時

「誰が」"Who" が主語の時は "Who" をそのまま使える！
(Who wrote ~?)

③ 「どこ？」を聞く (Where)

➤ 「場所」について質問するときに使います。

- Where is the filming location ?
(撮影場所はどこですか?)
- Where do you usually rehearse ?
(普段どこでリハーサルしますか?)
- Where are your parents from ?
(あなたの両親はどこの出身ですか?)

④ 「いつ？」を聞く (When)

➤ 「時間」や「日付」について質問するときに使います。

- When is the next audition ?
(次のオーディションはいつですか?)
- When did you start acting ?
(いつ演技を始めましたか?)
- When will the movie be released ?
(その映画はいつ公開されますか?)

⑤ 「なぜ？」を聞く (Why)

➤ 「理由」を質問するときに使います。

- Why do you want this role ?
(なぜこの役が欲しいのですか?)
- Why are you late ?
(なぜ遅れたのですか?)
- Why is this scene so difficult ?
(なぜこのシーンはこんなに難しいのですか?)

⑥ 「どのくらい？」を聞く (How)

➤ 「方法」や「状態」を質問するときに使います。

- How do you prepare for auditions ?
(オーディションの準備はどうやりますか?)
- How was the performance ?
(その演技はどうでしたか?)
- How do you feel ?
(気分はどうですか?)

- WH疑問文は文頭において、その後は「be動詞 / 助動詞 / 一般動詞」のいずれかが続く

① WH疑問詞 + be動詞 (am, is, are, was, were)

- Where are you ?
(あなたはどこにいますか?)
- When is the premiere ?
(プレミアはいつですか?)

② WH疑問詞 + 助動詞 (can, will, should などを使う)

- What should I do next ?
(次に何をすればいいですか?)
- Where can I find the script ?
(どこで台本を見つけられますか?)

③ WH疑問詞 + 一般動詞 (do, does, did などを使う)

- Why do you like this role ?
(なぜこの役が好きなのですか?)
- How did you prepare for this scene ?
(このシーンの準備はどうやったのですか?)

- "Who" が主語のときはそのまま使える

"Who" が主語のときは "do / does / did" を使わず、そのまま動詞を続けることができる

- Who wrote this script ?
(この台本を書いたのは誰ですか?)
- Who directed the film ?
(その映画を監督したのは誰ですか?)

- ① **What** is your favorite food ?
 (あなたの好きな食べ物は何ですか?)
 → "What" は「何?」を聞くときに使う。
- ② **Who** wrote this book ?
 (この本を書いたのは誰ですか?)
 → "Who" が主語のときは "does / did" を使わずにそのまま動詞を続ける。
- ③ **Where** do you live ?
 (あなたはどこに住んでいますか?)
 → "Where" は「どこ?」を聞くときに使う。
- ④ **When** is your birthday ?
 (あなたの誕生日はいつですか?)
 → "When" は「いつ?」を聞くときに使う。
- ⑤ **Why** are you late ?
 (なぜ遅れたのですか?)
 → "Why" は「なぜ?」を聞くときに使う。
- ⑥ **How** do you go to school ?
 (あなたはどのようにして学校に行きますか?)
 → "How" は「どうやって?」を聞くときに使う。
- ⑦ **Which** color do you prefer, red or blue ?
 (赤と青、どちらの色が好きですか?)
 → "Which" は「どれ?」を聞くときに使う。選択肢があるときに便利。
- ⑧ **What** time does the movie start ?
 (映画は何時に始まりますか?)
 → "What time" で「何時?」を聞く疑問文になる。
- ⑨ **How** much is this ?
 (これはいくらですか?)
 → "How much" は「いくら?」を聞くときに使う。
- ⑩ **How** was his reaction ?
 (彼の反応はどうでしたか?)
 → "How" を使って「どんな感じ?」を聞く。

他にもあるWhatの使い方

What構文

「質問する時以外に使うWhat」

What を使うと、「〇〇なこと」「〇〇すること」など、具体的な内容を強調することもできます。



What he said is true.
(彼が言ったことは本当です。)



What I need is more time.
(私に必要なのは、もっと時間です。)

What構文



What構文

➤ 「〇〇なこと」「〇〇すること」を強調したいときに使う！

① 「○○なこと」「○○すること」を主語にして強調できる

- **What** I love the most is acting.
(私が一番好きなのは、演技をすることです。)
- **What** she wants is a bigger role.
(彼女が欲しいのは、もっと大きな役です。)

② 「○○したこと」が文の主語や目的語になる

- **What** he said was surprising.
(彼が言ったことは驚きでした。)
- **What** he did shocked everyone.
(彼がやったことは、みんなを驚かせました。)

目的語



➤ 目的語は、動詞（アクション）の「相手」や「対象」になるもの！

③ 「○○なのは～だ」と特定のことを強調できる

- **What** you need is more practice.
(あなたに必要なのは、もっと練習です。)
- **What** matters the most is passion.
(一番大事なものは情熱です。)

・「○○なこと」「○○すること」を主語にして強調できる

- What he thinks is important.
(彼が考えていることは重要です。)
- What I need is more time.
(私にもっと必要なのは、時間です。)

・「○○したこと」が文の主語や目的語になる

- What she saw at the audition amazed her.
(彼女がオーディションで見たことは、彼女を驚かせた。)
- I remember what you told me yesterday.
(私はあなたが昨日言ったことを覚えている。)

・「○○なのは～だ」と特定のことを強調できる

- What I need before an audition is more practice.
(オーディションの前に私に必要なのは、もっと練習することです。)
- What matters the most is confidence.
(最も大事なものは、自信です。)



ハチドリくんの 成功体験

英会話カフェで初めての長時間会話！

英会話カフェに初めて行ったときは、自己紹介だけで精一杯。でも通い続けるうちに、ある日気づいたら1時間以上ネイティブと話していた！

「Wait, you've improved so much!」と言われて嬉しかった。英語は続けられれば必ず成長する！

- ① **What** I need is more time.
(私に必要なのは、もっと時間です。)
→ "What I need" が主語になっていて、「何が必要なのか」を強調している。
- ② **What** he said was surprising.
(彼が言ったことは驚きだった。)
→ "What he said" が主語になっていて、「何を言ったのか」を強調している。
- ③ **What** she enjoys the most is traveling.
(彼女が一番楽しんでいるのは、旅行することです。)
→ 「彼女が何を楽しんでいるのか」を強調している。
- ④ **What** I love about this place is the atmosphere.
(この場所で私が好きなのは、雰囲気です。)
→ 「何が好きなのか」を強調している。
- ⑤ **What** matters most is your happiness.
(最も大事なものは、あなたの幸せです。)
→ 「何が一番大事か」を強調している。
- ⑥ **What** I want to do is help people.
(私がやりたいのは、人を助けることです。)
→ 「何をしたいのか」を強調している。
- ⑦ **What** he is saying doesn't make sense.
(彼が言っていることは意味が通らない。)
→ 「何が意味をなさないのか」を強調している。
- ⑧ **What** she wore to the party was stunning.
(彼女がパーティーに着ていったものは、とても素敵だった。)
→ 「彼女が何を着たのか」を強調している。
- ⑨ **What** we need to discuss is the budget.
(私たちが話し合うべきなのは、予算についてです。)
→ 「何について話し合うのか」を強調している。
- ⑩ **What** he did for me was really kind.
(彼が私のためにしてくれたことは、とても親切だった。)
→ 「彼が何をしてくれたのか」を強調している。

“

**Opportunities
don't happen.
You create
them.**

チャンスは待つものではない。
自ら創り出すものだ。

– **Chris Grosser**

クリス・グロッサー

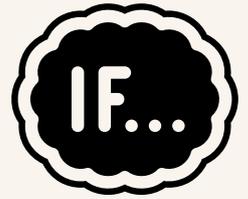


「もし～なら」「～かどうか」の文の作り方

IF用法

「もし～なら」「～かどうか」

if は「もし～なら」「～かどうか」という意味で使う単語です。「もし雨が降ったらどうしよう」や、「彼が来るかどうか分からない」のようなことを表現する時に使えます。



- **If** it rains, I will stay home.
(もし雨が降ったら、家にいようと思います。)



- **If** I had a million dollars, I would travel the world.
(もし私が100万ドル持っていたら、世界を旅するのにな。)



- **If** I had known about the meeting, I would have attended.
(もしその会議について知っていたら、出席したのに。)



- I don't know **if** he is going to come.
(彼が来るかどうか分かりません。)

IF用法の文の特徴



- 「もし～なら」と未来や仮定の話をするときに便利！
- 「～かどうか」と YES / NO の不確かなことを話すときにも使える！

① 現実的な話（可能性のある未来）

「もし〇〇なら、△△する」という普通の条件を表します。

➤ If + 現在形, 主語 + will / be going to + 動詞の原形

- If I finish my work early, I'm going to go for a walk.
(もし仕事を早く終えたら、散歩に行くつもりです。)
- If it rains tomorrow, we will stay home.
(もし明日雨が降ったら、私たちは家にいるよ。)

② 非現実的な話（今の話）

「もし〇〇だったら、△△するのに」という現実とは違う仮定を表します。

➤ If + 過去形, 主語 + would + 動詞の原形

- If he were rich, he would buy a house.
(もし彼がお金持ちなら、家を買うだろう。)
- If I were a bird, I would fly everywhere.
(もし私が鳥だったら、どこにでも飛んで行こう。)

"If I were" のルール
この場合の時のみ If I were が正しいけど、
会話では "If I was" も使われることがあるよ！



③ 非現実的な話（過去の話）

「もし〇〇していたら、△△だったのに」という過去の仮定を表します。

➤ If + had + 過去分詞, 主語 + would have + 過去分詞

- If he had left earlier, he would have caught the train.
(もし彼がもっと早く出発していたら、電車に乗れていたかもしれない。)
- If I had studied harder, I would have passed the test.
(もしもっと勉強していたら、テストに合格していたのに。)

④ ～かどうか（YES / NO が不確かな話）

「〇〇かどうか」を表すときに使います。

➤ I don't know if + 主語 + 動詞

- I don't know if he's gonna come (or not).
(彼が来る“のか”来ない“のか”わからない。)
- I'm not sure if she is at home now.
(彼女が今家にいるかどうか、はっきりわからないんだ。)

・ 現実の話は「if + 現在形 + α」

- If it rains tomorrow, we will stay home.
(もし明日雨が降ったら、私たちは家にいます。)
- If you practice every day, you will become a better actor.
(もし毎日練習すれば、もっと上手な俳優になれるよ。)

・ 非現実的な話は「if + 過去形 主語 + would + 動詞の原形」

- If I were a famous actor, I would travel the world.
(もし私が有名な俳優だったら、世界を旅するのに。)
- If she had more time, she would practice more.
(もし彼女にもっと時間があれば、もっと練習するのに。)

この場合にのみ "If I were" が使える！



・ 過去の非現実的な話は「if + had + 過去分詞, 主語 + would have + 過去分詞」

- If he had studied harder, he would have passed the audition.
(もし彼がもっと勉強していたら、オーディションに合格していたのに。)
- If she had got up earlier, she would have arrived on time.
(もし彼女がもっと早く起きていたら、時間通りに到着したのに。)

・ 「○○かどうか」なら "if" か "whether" を使う

- I don't know if he is coming.
(彼が来るかどうかわかりません。)
- Let me know whether you are available tomorrow.
(明日予定が空いているかどうか教えてください。)

- ① **If you practice** every day, **you will** get better.
 (もし毎日練習すれば、上達するよ。)
 → 現実の話。「条件」を表していて、「練習すれば上手くなる」と示している。
- ② **If I were** you, **I would** take the job.
 (もし私があなたなら、その仕事を引き受ける。)
 → 非現実の話。"If + 過去形, 主語 + would ~" で「今とは違う仮の話」。
- ③ **If she studied** harder, **she would pass** the exam.
 (もし彼女がもっと勉強すれば、試験に合格するだろう。)
 → 非現実の話。「実際にはそうではないが、もしそうならこうなる」を表す。
- ④ **If I had known** about the meeting, **I would have joined**.
 (もしそのミーティングを知っていたら、参加していたのに。)
 → 過去の非現実の話。「過去に起こらなかったことを仮定」する。
- ⑤ **If he had left** earlier, **he wouldn't have missed** the train.
 (もし彼がもっと早く出発していたら、電車に乗り遅れなかったのに。)
 → 過去の非現実の話。「過去の出来事を変えたら、結果も変わっていた」。
- ⑥ **I don't know if** he is coming.
 (彼が来るかどうかわからない。)
 → YES / NO が不確かな話。"if" は「○○かどうか」という意味でも使える。
- ⑦ **Let me know if** you need any help.
 (手伝いが必要なら教えてね。)
 → 現実の話。「もし～なら」という意味で "if" を使って条件を表している。
- ⑧ **If possible**, I'd like to take a day off.
 (可能なら、休みを取りたい。)
 → 現実の話。"If possible" は、丁寧なお願いに使える。
- ⑨ **If I have time**, **I will call** you later.
 (もし時間があれば、あとで電話するね。)
 → 現実の話。「条件によって行動が決まる」ことを表している。
- ⑩ **If I had studied harder**, **I would have passed** the test.
 (もしもっと勉強していたら、テストに合格していたのに。)
 → 過去の非現実の話。「実際は勉強しなかったので、合格できなかった」。

「～すること」と言いたい時に使う文

動名詞

「～すること」

英語では、動詞に "-ing" をつけると、「～すること」という意味の名詞に変えることができます。これは動名詞と呼ばれます。



- I enjoy **reading**.

(私は読むことを楽しめます。)

read 「読む」 → reading 「読むこと」



- **Swimming** is fun.

(泳ぐことは楽しい。)

swim 「泳ぐ」 → swimming 「泳ぐこと (水泳)」



- 動詞 (be動詞&一般動詞) をそのまま並べることはできないので、後ろの動詞を名詞にします。

✕ I enjoy read. → ○ I enjoy reading.

✕ Swim is fun. → ○ Swimming is fun.

- ① 現在進行形 (～しているところだ)

• I **am teaching** English. (私は英語を教えている。)

- ② 現在分詞 (～している名詞=形容詞)

• **The boy teaching** English. (英語を教えているその男子。)

- ③ 動名詞 (～すること)

• **Teaching English** is my hobby. (英語を教えることは私の趣味だ。)

おさらい



① 一部の動詞の後には必ず動名詞がくる

次の動詞の後には、"to + 動詞" ではなく "動名詞 (～ing) " を使います。

➤ 動名詞を取る代表的な動詞

- enjoy (～を楽しむ) → I enjoy **playing** tennis.
- avoid (～を避ける) → I avoid **driving** at night.
- finish (～を終える) → He finished **writing** the script.
- mind (～を気にする) → Do you mind **opening** the door?
- give up (～をやめる) → She gave up **smoking**.
- suggest (～を提案する) → I suggest **taking** a break.
- consider (～を考える) → They are considering **buying** a new car.

② 「動作」 や 「行為」 そのものを表す場合

- **Swimming** is fun. (泳ぐことは楽しい。)
- **Painting** is his passion. (絵を描くことは彼の情熱です。)
- **Learning** English takes time. (英語を学ぶことには時間がかかります。)

③ "to + 動名詞" になる特別な表現

be used to ～ing (～することに慣れている)

- I am used to waking up early. (私は早起きに慣れています。)

look forward to ～ing (～することを楽しみにする)

- I'm looking forward to seeing you. (あなたに会うのを楽しみにしています。)

"to" の後なのに
動名詞を使うので注意！



- 動詞の後ろにもう1つ動詞を続けるときは、後ろの動詞を "～ing" にして「～すること」という名詞の役割にする

- I enjoy watching movies.
(私は映画を見るのを楽しみます。)
- I enjoy performing on stage.
(私はステージで演じるのを楽しみます。)

動詞を連続で使えないので、
後ろの動詞を "～ing" にする！



- "enjoy, avoid, finish" などの動詞の後は "to + 動詞" ではなく動名詞

- She avoided talking about the mistake.
(彼女はそのミスについて話すのを避けました。)
- He finished writing the script.
(彼は台本を書き終えました。)

- "to" の後に動名詞がくる特別な表現もある！ (look forward to ～ing など)

- I'm looking forward to meeting the director.
(私は監督に会うのを楽しみにしています。)
- She is used to performing on stage.
(彼女は舞台上で演じることに慣れてしています。)

- 「～すること」が主語のときも動名詞を使う

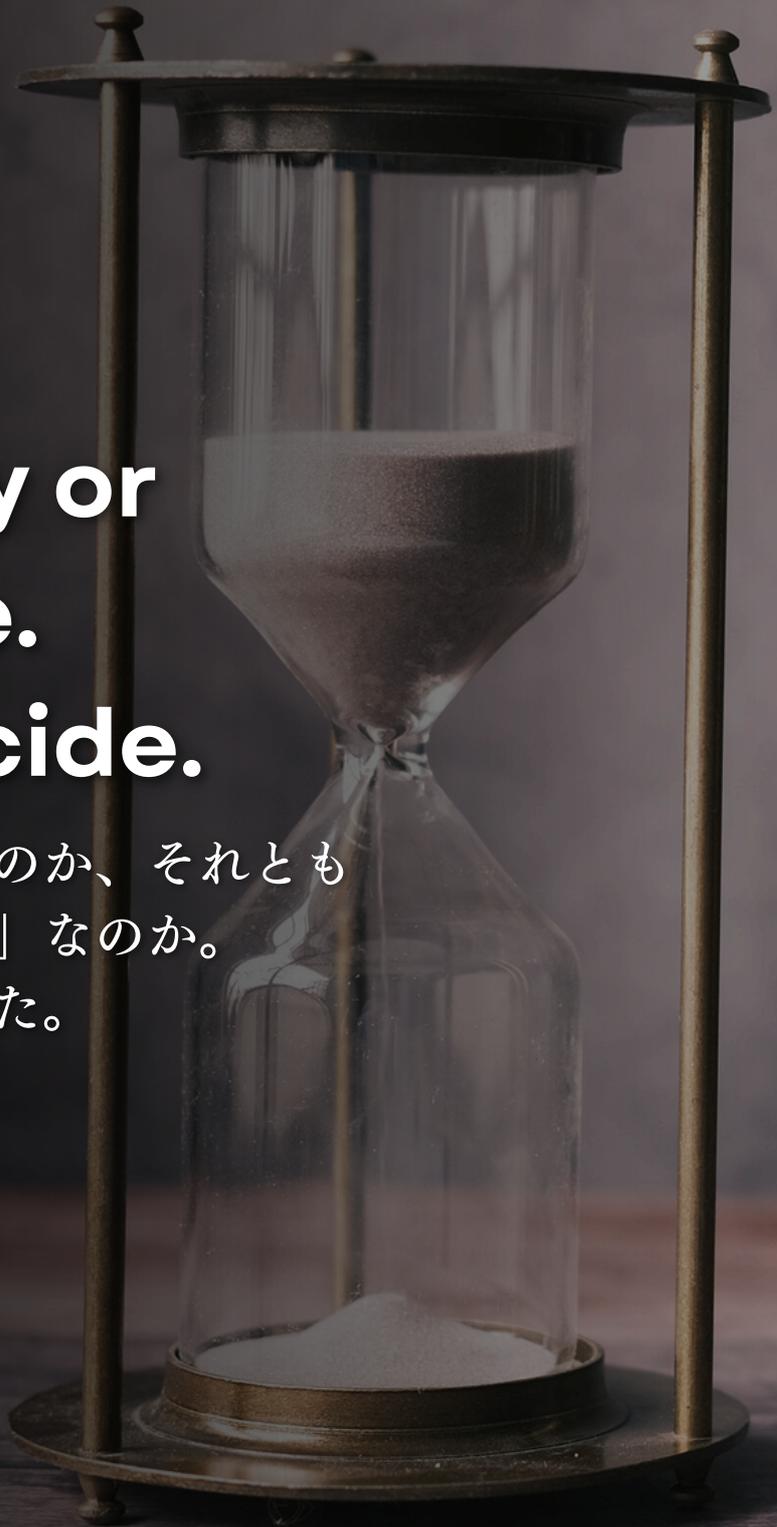
- Acting requires confidence.
(演技をすることには自信が必要です。)
- Practicing every day is important for actors.
(毎日練習することは俳優にとって大切です。)

- ① I enjoy **reading** books.
 (私は本を読むのが好きです。)
 → "enjoy" の後は動名詞 (～ing) がくる。
- ② She finished **writing** the report.
 (彼女はレポートを書き終えた。)
 → "finish" の後は動名詞。「～し終える」という意味になる。
- ③ He avoided **talking** about the mistake.
 (彼はそのミスについて話すのを避けた。)
 → "avoid" の後は動名詞。「～するのを避ける」という意味になる。
- ④ I can't stand **waiting** in long lines.
 (長い行列で待つのは耐えられない。)
 → "can't stand" の後は動名詞
- ⑤ They admitted **cheating** on the test.
 (彼らはテストで不正をしたことを認めた。)
 → "admit" の後は動名詞。「～したことを認める」という意味になる。
- ⑥ She is good at **playing** the piano.
 (彼女はピアノを弾くのが得意だ。)
 → "be good at" の後は動名詞。「～するのが得意」という意味になる。
- ⑦ I'm looking forward to **meeting** you.
 (あなたに会うのを楽しみにしています。)
 → "look forward to" の後は動名詞。
- ⑧ He kept **talking** during the movie.
 (彼は映画の間ずっと話し続けていた。)
 → "keep" の後は動名詞。「～し続ける」という意味になる。
- ⑨ She gave up **trying** to fix the computer.
 (彼女はパソコンを修理しようとするのを諦めた。)
 → "give up" の後は動名詞。「～するのを諦める」という意味になる。
- ⑩ He suggested **going** to the new restaurant.
 (彼は新しいレストランに行くことを提案した。)
 → "suggest" の後は動名詞。「～することを提案する」という意味になる。

“

**One day or
day one.
You decide.**

「いつかやる」のか、それとも
「今日がその日」なのか。
決めるのはあなた。



「to + 動詞」で表す動作

不定詞

「～すること」「～するための」「～するために」

このルールは "to + 動詞の形" で、「～すること」「～するための」「～するために」といった意味を作れる便利な表現です。



I want **to eat** sushi.
(私は寿司を食べたい。)



She needs **to practice** more.
(彼女はもっと練習する必要があります。)

- ・動詞をそのまま使えないときに、"to + 動詞" で「名詞・形容詞・副詞」のように使えます。

名詞：「誰?」「何?」を表す (actor / movie)

形容詞：「どんな?」を表す (exciting / beautiful)

副詞：「どのように?」「どのくらい?」を表す (clearly / slowly)

- ・動名詞と不定詞の違い

動名詞 (～ing)	不定詞 (to + 動詞)
すでにやっていること / 実際の行動	これからやること / 目的・意図
I enjoy performing on stage. (演じるのを楽しむ)	I want to perform on stage. (ステージで演じたい)
She finished reading the script. (彼女は台本を読み終えた)	She decided to read the script. (彼女は台本を読むことを決めた)

「すでにやっている行動」 ➤ 動名詞!
「これからやること・目的」 ➤ 不定詞!



① 「～すること」として使う（名詞の役割）

➤ 動詞の後ろに置いて、「～すること」を表します。

- I want **to be** an actor.
(私は俳優になりたい。)
- She decided **to take** the role.
(彼女はその役を引き受けることを決めた。)
- We hope **to finish** the rehearsal soon.
(私たちはリハーサルを早く終えたいと願っています。)

ポイント！



※①の名詞的用法で、To run in the morning is my hobby. などと主語に不定詞を使って表すよりも、Running in the morning is my hobbyと動名詞で表すほうが自然。文頭で「～することは」と言いたいときは、基本的に動名詞を使えばOK!

② 「～するための / ～すべき」として使う（形容詞の役割）

➤ 名詞を説明するときに「～するための / ～すべき」という意味で使います。

- I have a script **to read**.
(読むべき台本があります。)
- She found a place **to practice**.
(彼女は練習するための場所を見つけました。)
- Do you have something **to drink**?
(何か飲むものはありますか?)

③ 「～するために / ～して」として使う（副詞の役割）

➤ 「なぜ?」「どうして?」の理由や目的を説明します!

- ・ 目的（～するために）

I'll study hard **to get** a lead role.

（主演の役をもらうために一生懸命勉強する。）

- ・ 理由（～して）

I'm happy **to work** with you.

（あなたと一緒に仕事ができる嬉しいです。）

- ・ 結果（～した結果）

He grew up **to become** a director.

（彼は成長して監督になった。）

- ・ 感情（～するなんて / ～ほど）

She was kind enough **to help** me.

（彼女は親切にも私を助けてくれた。）



ハチドリくんの 成功体験

海外のスーパーでヒーローに!?

レジで順番を待っていたら、前の人の小銭が転がってしまった。とっさに拾って「Here you go!」と言ったら、「Wow, you're so kind!」と大感謝! たった一言でも、相手を笑顔にできるって嬉しい。英語の魔法を感じた瞬間!

- 「～すること」、「～するための」、「～するために」を“to + 動詞”で表現する

- I enjoy performing on stage. 【名詞】
(演じるのを楽しむ)
- I found a place to practice. 【形容詞】
(私は練習するための場所を見つけました。)
- She left early to catch the train. 【副詞】
(彼女は電車に乗るために早く出発しました。)

- 主語で「～することは」と表現する時は、不定詞ではなくing形(動名詞)を使うのが自然

“To act requires confidence.”のように、主語で不定詞を使う場合は、動名詞を使って“Acting requires confidence.”と表現する方が自然になります。

- 「too A to B」は「AすぎてBできない」という意味になる

- The coffee is too hot to drink.
(そのコーヒーは熱すぎて飲めません。)

- "see / hear / watch / feel / make / let / have / help" の後ろでは "to" がいない

- She made him redo the scene.
(彼女は彼にシーンをやり直させた。)
- I heard him say something important.
(彼が何か重要なことを言うのを聞いた。)
- She watched the actor rehearse his lines.
(彼女は俳優がセリフをリハーサルするのを見た。)
- I felt the ground shake during the earthquake.
(地震の間、地面が揺れるのを感じた。)
- I saw her rehearse the scene.
(私は彼女がシーンのリハーサルをするのを見ました。)
- I let him borrow my script.
(私は彼に台本を貸しました。)
- They had her sign the contract.
(彼らは彼女に契約書にサインさせました。)
- Can you help me carry this?
(これを運ぶのを手伝ってくれますか?)

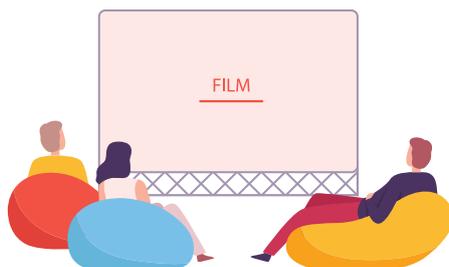
- ① I want **to learn** Spanish.
(私はスペイン語を学びたい。)
→ "want" の後は "to + 動詞" (不定詞) を使う。「～したい」という意味になる。
- ② She decided **to move** to Tokyo.
(彼女は東京に引っ越すことを決めた。)
→ "decide" の後は不定詞。「～することを決める」という意味になる。
- ③ He needs **to finish** his homework.
(彼は宿題を終える必要がある。)
→ "need" の後は不定詞。「～する必要がある」という意味になる。
- ④ They hope **to win** the competition.
(彼らは大会で勝つことを望んでいる。)
→ "hope" の後は不定詞。「～することを望む」という意味になる。
- ⑤ I'm happy **to see** you.
(あなたに会えて嬉しい。)
→ "be + 形容詞 + to 不定詞" で「～して〇〇だ」という意味になる。
- ⑥ She was surprised **to hear** the news.
(彼女はそのニュースを聞いて驚いた。)
→ "be surprised to ~" で「～して驚く」という表現。
- ⑦ He went to the store **to buy** some milk.
(彼は牛乳を買うために店に行った。)
→ "to + 動詞" で「～するために」という目的を表す。
- ⑧ It is important **to practice** every day.
(毎日練習することは大切だ。)
→ "It is + 形容詞 + to 不定詞" で「～することは〇〇だ」という表現。
- ⑨ I have a book **to read**.
(私は読むべき本がある。)
→ "to + 動詞" を使って「～するための〇〇」「～すべき〇〇」を表す。
- ⑩ She told me **to wait** here.
(彼女は私にここで待つように言った。)
→ "tell / ask / want + 人 + to 不定詞" で「人に～するように言う / してほしい」。

「〇〇より～」 「一番～」の文の作り方

比較級と最上級

「〇〇より～」 「一番～」

英語では、「AはBより〇〇だ」「Aが一番〇〇だ」と言いたいときに 比較級（～er / more ～）や最上級（the ～est / the most ～）を使います。



This movie is **longer than** the last one.
(この映画は前の映画より長い。)



She is **the most talented** actress in Hollywood.
(彼女はハリウッドで最も才能のある女優です。)

まとめると...



比較級 → 「AはBより〇〇だ」と比較する時！

最上級 → 「Aが一番〇〇だ」とグループの中で1番を表す時！

① 短い単語 (1音節 or 一部の2音節)

- 比較級 → 形容詞や副詞に "er" をつける！
- 最上級 → 形容詞や副詞に "est" をつける！

形容詞：「どんな？」を表す (exciting / beautiful)

副詞：「どのように？」「どのくらい？」を表す (clearly / slowly)

原級 (元の形)	比較級 (~より〇〇)	最上級 (最も〇〇)
fast (速い)	faster (もっと速い)	the fastest (最も速い)
big (大きい)	bigger (もっと大きい)	the biggest (最も大きい)
short (短い)	shorter (もっと短い)	the shortest (最も短い)

- He is **taller than** his brother.
(彼は弟より背が高い。)
- This is **the shortest** script I've ever read.
(これは私が読んだ中で一番短い台本です。)

比較級のコツ！



音節の数え方

- 手をあごの下に当てて発音するとあごが下がる回数が音節の数！

"y" で終わる単語

- "y" で終わる単語は "y → i" に変えて "er" をつける！
(happy → happier / happiest)

② 長い単語 (2音節以上)

比較級 → "more + 形容詞" をつける！

最上級 → "the most + 形容詞" をつける！

原級 (元の形)	比較級 (~より〇〇)	最上級 (最も〇〇)
interesting (面白い)	more interesting (もっと面白い)	the most interesting (最も面白い)
talented (才能がある)	more talented (もっと才能がある)	the most talented (最も才能がある)
expensive (高い)	more expensive (もっと高い)	the most expensive (最も高い)

- His acting is **more talented** than before.
(彼の演技は以前より良くなった。)
- This movie is **the most interesting** movie.
(この映画が1番興味深い。)

• 短い単語（1音節 or 一部の2音節）は "er / est" をつける

- This movie is longer than the last one.
(この映画は前の映画より長い。)
- She is the tallest actress in the cast.
(彼女はキャストの中で一番背が高い。)

• 長い単語（2音節以上）は "more / most" をつける

- This role is more challenging than my last one.
(この役は前の役より難しい。)
- She is the most talented actress in Hollywood.
(彼女はハリウッドで最も才能のある女優です。)

• 音節の数は「あごが下がる回数」

- big (ビッグ → 1音節) → bigger / the biggest
- expensive (イ・クス・ペン・シブ → 4音節) → more expensive / the most expensive

• "good → better / the best" など、不規則変化の単語もある

原級（元の形）	比較級（～より〇〇）	最上級（最も〇〇）	意味
good / well	better	the best	良い / 上手に
bad / badly	worse	the worst	悪い / ひどく
far (距離)	farther	the farthest	(物理的に) 遠い
far (程度)	further	the furthest	(抽象的に) 遠い / さらに
little (量)	less	the least	少ない / より少ない / 最も少ない
much / many	more	the most	たくさんの / もっとたくさん / 最も多い
late (遅い / 遅く)	later	the latest	(時間的に) 遅い / 最新の
late (順番・順序)	latter	the last	(順番が) 後の / 最後の
old (年齢・物)	older	the oldest	古い / 一番古い
old (家族の兄・姉)	elder	the eldest	年が上の / 一番上の

- ① This book is **longer than** that one.
 (この本はあの本より長い。)
 → "longer" は "long" の比較級。「AはBより～」と言いたいときに使う。
- ② She is **taller than** her brother.
 (彼女は弟より背が高い。)
 → "taller" は "tall" の比較級。「～より○○」と比較するときに使う。
- ③ This movie is **more interesting than** the last one.
 (この映画は前の映画より面白い。)
 → "more interesting" は「興味深い」の比較級。
- ④ He **runs faster than** me.
 (彼は私より速く走る。)
 → "faster" は "fast" の比較級。「より速く」のように副詞にも使える。
- ⑤ This is **the best** restaurant in town.
 (ここは街で一番のレストランです。)
 → "the best" は "good" の最上級。"the + 形容詞の最上級" を使う。
- ⑥ She is **the most talented** singer in our school.
 (彼女は学校で最も才能のある歌手です。)
 → "the most talented" は「最も才能がある」という意味。
- ⑦ This exam was **the hardest** one I've ever taken.
 (この試験は私が今まで受けた中で一番難しかった。)
 → "the hardest" は "hard" の最上級。「最も○○な～」と言いたいときに使う。
- ⑧ Today is **the hottest** day of the year.
 (今日は今年一番暑い日だ。)
 → "the hottest" は "hot" の最上級。
- ⑨ This bag is **heavier than** that one.
 (このカバンはあのカバンより重い。)
 → "heavier" は "heavy" の比較級。"y" を "i" に変えて "er" をつける。
- ⑩ She speaks **the most fluently** in our class.
 (彼女はクラスの中で最も流暢に話す。)
 → "the most fluently" は副詞の最上級。

“

**Fall seven
times, stand
up eight.**

七転び八起き。



「it でスムーズに伝える文」

it構文

「主語で It を使う」

英語では「～することは〇〇だ」という表現をするときに、「It」を主語にすることがよくあります。



It is important to practice every day.
(毎日練習することは大切です。)



It is difficult to understand this script.
(この台本を理解するのは難しいです。)

It構文



- 「～すること」を主語にしたいときに "It" を使う！
- "It is + 形容詞 + to 不定詞" の形でよく使う！

① 天気や時間の表現

- 天気・時間・距離を表すときに "It" を主語にします。
 - **It is** sunny today.
(今日は晴れている。)
 - **It is** 3 PM now.
(今、午後3時です。)

② 意見や感想を言うとき

- 「～するのは〇〇だ」と感想や意見を言うときに使います。
 - **It is** amazing to work with such a great director.
(すごい監督と一緒に仕事ができるのは素晴らしいことだ。)
 - **It is** hard to act in front of a green screen.
(グリーンスクリーンの前で演技するのはむずかしい。)

③ 形容詞 (important, fun, easy など) を使うとき

- 「～するのは〇〇だ」と評価するときに使います。
 - **It is** important to stay in character.
(役になりきることは大事だ。)
 - **It is** exciting to see the final cut.
(完成版を見るのはワクワクする。)

- 「～することは〇〇だ」を言いたいときは "It is + 形容詞 + to 不定詞" を使う

- It is important to practice every day.
(毎日練習することは大切です。)

- 「誰にとって？」を明確にしたいときは "for + 人" を入れる

- It is easy for beginners to learn basic acting skills.
(初心者にとって、基本的な演技スキルを学ぶのは簡単です。)
- It was exciting for me to work with a famous director.
(有名な監督と仕事をするのは、私にとってワクワクすることでした。)

- "It was ~" にすると「過去の話」にもできる

- It was an honor to perform on that stage.
(そのステージで演じることは光栄でした。)
- It was hard to stay focused during the long rehearsal.
(長時間のリハーサル中に集中を保つのは大変でした。)



ハチドリくんの 成功体験

海外出張での自信

初めての海外出張では英語に不安しかなかった。でも、打ち合わせで思い切って自分の意見を伝えたら、「That's a good point!」と評価された。英語は完璧じゃなくても、伝えようとする気持ちが大事だと実感。今では堂々と会話できる！

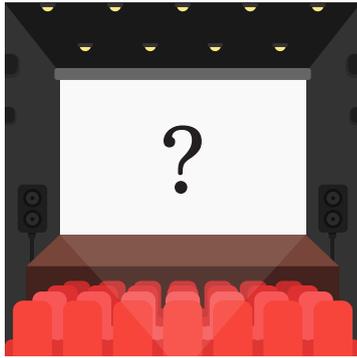
- ① **It is** important to practice every day.
 (毎日練習することは大切だ。)
 → 「～することは○○だ」と言いたいときに "It is + 形容詞 + to 不定詞" を使う。
- ② **It is** difficult to wake up early.
 (早起きするのは難しい。)
 → 「～することは○○だ」という評価を表すときに使う。
- ③ **It is** fun to learn new things.
 (新しいことを学ぶのは楽しい。)
 → 「～することは楽しい」と感情を表すときに使う。
- ④ **It was** an honor to meet you.
 (あなたにお会いできて光栄でした。)
 → "It was" にすると「過去の出来事」にできる。
- ⑤ **It is** necessary to be on time.
 (時間を守ることは必要だ。)
 → "It is necessary to ~" は「～することが必要」という表現。
- ⑥ **It** took me an hour to finish my homework.
 (宿題を終えるのに1時間かかった。)
 → "It takes 人 + 時間 + to 不定詞" で「～するのに○○時間かかる」。
- ⑦ **It is** easy for children to learn languages.
 (子どもにとって言語を学ぶのは簡単だ。)
 → "It is + 形容詞 + for 人 + to 不定詞" で「(人)にとって～するのは○○だ」。
- ⑧ **It is** obvious that he is lying.
 (彼が嘘をついているのは明らかだ。)
 → "It is obvious that ~" で「～は明らかだ」と言いたいときに使う。
- ⑨ **It seems** that she is happy.
 (彼女は幸せそうだ。)
 → "It seems that ~" は「～のように見える / ~らしい」と言うときに使う。
- ⑩ **It is** said that this temple is very old.
 (この寺はとても古いと言われている。)
 → "It is said that ~" は「～と言われている」

"a / an / the" の使い方

冠詞

「a / an / the」

英語では「1つの〇〇」「その〇〇」と言いたいときに "a / an / the" を使い分けます。「冠詞」の「冠 (かん)」は、日本語の「冠 (かんむり)」と同じ意味で、「名詞の前につけるもの」というイメージからきています。



I saw **a** movie.
(私は **ある** 映画を見た。)



I saw **the** movie.
(私は **その** 映画を見た。)

意味の変化



- "a / an" → 初めて話すもの！「1つの〇〇」
- "the" → どの〇〇か分かるもの！「その〇〇」

① "a / an" → 「1つの○○ (どれでもいい)」

- 「初めて話すもの」「どれでもいいもの」には "a / an" を使います。
- "a" は子音で始まる単語の前、"an" は母音 (a, e, i, o, u) で始まる単語の前におきます。
 - I saw **a** movie.
(私は ある映画 を見た。)
 - Can I have **an** apple?
(1つのリンゴ をもらえますか?)

② "the" → 「その○○ (どれか決まっている)」

- 「どれのことか分かっているとき」は "the" を使います。
- 「唯一のもの」も "the" を使います。(例: the sun, the moon, the president)
 - I saw **the** movie you recommended.
(あなたがオススメした あの映画 を見たよ。)
 - **The** sun is shining.
(太陽 が輝いている。)

③ 無冠詞 (何もつけない)

- 「映画が好き」みたいに、ジャンルや一般的なものを指すときは冠詞をつけないこともあります。
 - I like movies.
(私は映画が好きです。)
 - He loves music.
(彼は音楽が好きです。)

迷ってしまった時



- a / an / the 何をつけたらいいか迷ったらもう何もつけない方がまだマシ!

「映画は好きですか」「映画が好きですか」「映画に好きですか」

「は or が or に」どれにするのか迷ったらもう省いてしまって「映画好きですか？」でも伝わる、という考え方と同じ!

- "a / an" は「1つの〇〇」(初めて話すものに使う)

- I bought a new script.
(私は1つの新しい台本を買いました。)

- "the" は「その〇〇」(どれのことか分かるときに使う)

- The script is on the table.
(その台本はテーブルの上にあります。)

- "a / an" は数えられる名詞に使う ("the" は数えられないものにも使える)

- She is an actress.
(彼女は ある女優 です。)
- The weather is nice today.
(天気 はいいですね。)



ハチドリくんの 成功体験

映画を字幕なしで楽しめた！

昔は英語の映画を字幕なしで見るなんて無理だと思っていた。でも、毎日少しずつリスニングを続け、ある日ふと気づいたら「え、今のセリフ聞き取れた！」。気づいたら字幕なしでも楽しめるようになっていた！英語の勉強が、趣味にもつながるって最高！

- ① I saw **a** dog in **the** park.
(私は公園で犬を見た。)
→ "a dog" は「1匹の犬 (どの犬か特定されていない)」を指す
- ② She is **an** artist.
(彼女はアーティストです。)
→ "an artist" の "an" は母音 (a, e, i, o, u) で始まる単語の前に使う。
- ③ She is studying history at **university**.
(彼女は大学で歴史を勉強している。)
→ 「学校・大学・病院」など、一般的な機能を表すときは冠詞をつけない。
- ④ **The** sun is shining brightly today.
(今日は太陽が明るく輝いている。)
→ "the sun" のように、世界に1つしかないものには "the" をつける。
- ⑤ I love watching **movies**.
(私は映画を観るのが好きです。)
→ "movies" は一般的な映画を指すため、冠詞なし (無冠詞)
- ⑥ I love **music**.
(私は音楽が好きです。)
→ 「音楽」のような一般的なものには冠詞をつけない (無冠詞)。
- ⑦ He is reading **an** interesting book.
(彼は面白い本を読んでいる。)
→ "an interesting book" の "an" は「どの本か特定されていない」ために使う。
- ⑧ Can you pass me **the** salt?
(その塩を取ってくれる?)
→ "the salt" は、話し手と聞き手が「どの塩か」を理解している。
- ⑨ We visited **a** museum.
(私たちはその街にある博物館に行った。)
→ "a museum" は「どの博物館か特定されていない」。
- ⑩ I bought **a** book and a pen. **The** book is very interesting.
(私は本とペンを買った。その本はとても面白い。)
→ 最初は "a book" (どの本かわからない)、2回目は "the book" (話の中で特定されたもの) になる。

“

**Don't limit
your
challenges.
Challenge
your limits.**

挑戦を制限するな。
自分の限界に挑め。

take の使い方

➤ "take" は「取る」「持っていく」「経験する」「時間がかかる」など、沢山の意味がある超便利な単語です。

① 「取る / 受ける」

- I took a break after the rehearsal.
(リハーサルの後、休憩を取った。)
- She took the package from the assistant.
(彼女はアシスタントから荷物を受け取った。)

② 「持っていく / 連れて行く」

- Can you take this script to the director?
(この台本を監督に持っていってくれる?)
- He took his friend to the audition.
(彼は友達をオーディションに連れて行った。)

③ 「使う / 経験する」

- She took the opportunity to work with a famous director.
(彼女は有名な監督と仕事をする機会をつかんだ。)
- He took the chance and auditioned for the role.
(彼はチャンスをつかんで、その役のオーディションを受けた。)

④ 「時間がかかる」

- It takes an hour to prepare the stage.
(ステージの準備には1時間かかる。)
- How long does it take to learn this scene?
(このシーンを覚えるのにどれくらい時間がかかる?)

⑤ 「盗む / 奪う」

- The thief took her bag and ran away.
(泥棒は彼女のバッグを奪って逃げた。)

⑥ 「測る / 調べる」

- The nurse took my temperature.
(看護師が私の体温を測った。)
- They took measurements for the new costumes.
(彼らは新しい衣装の寸法を測った。)

日常でよく使う "take" のフレーズ

- take your time → 急がなくていいよ
Take your time and practice the scene.
(ゆっくりシーンを練習してね。)
- take a chance → チャンスをつかむ
He took a chance and auditioned for the role.
(彼はチャンスをつかんでオーディションを受けた。)
- take control → コントロールする
She took control of the situation.
(彼女は状況をコントロールした。)
- take it easy → 気楽に
Take it easy before the big performance.
(本番前は気楽にね！)
- take a risk → リスクを取る
Sometimes you have to take a risk to succeed.
(成功するには、時にはリスクを取る必要がある。)
- take a break → 休憩する
Let's take a break before the next scene.
(次のシーンの前に休憩しよう。)
- take a shower → シャワーを浴びる
I need to take a shower after the shoot.
(撮影の後にシャワーを浴びないと。)
- take a walk → 散歩する
Let's take a walk before the premiere.
(プレミアの前に散歩しよう。)

get の使い方

➤ "get" は「手に入れる」「なる」「経験する」「理解する」など、たくさんの意味がある超便利な単語です。

① 「手に入れる / 受け取る」

- I got a new job.
(私は新しい仕事を手に入れた。)
- She got a letter from her friend.
(彼女は友達から手紙を受け取った。)

② 「～になる / 変化する」

- It's getting cold.
(寒くなってきた。)
- He got really angry.
(彼は本当に怒った。)

③ 「経験する / 影響を受ける」

- She got sick last week.
(彼女は先週、体調を崩した。)
- I got stuck in traffic.
(渋滞にはまった。)

④ 「理解する / わかる」

- I don't get it.
(よくわからない。)
- Do you get what I mean?
(私の言ってること、わかる?)

⑤ 「～してもらおう / させる」

- I got my hair cut.
(私は髪を切ってもらった。)
- She got her car fixed.
(彼女は車を修理してもらった。)

日常でよく使う "get" のフレーズ

- get better → 良くなる / 上達する
She got better after resting for a few days.
(彼女は数日休んで回復した。)
- get things done → やるべきことを終わらせる
I need to get things done before the deadline.
(締め切り前にやるべきことを終わらせないと。)
- get lost → 迷う / どこかに行ってしまう
We got lost in the city.
(私たちは街で迷ってしまった。)
- get married → 結婚する
They got married last year.
(彼らは去年結婚した。)
- get ready → 準備する
Hurry up! We need to get ready for the meeting.
(急いで! ミーティングの準備をしないと。)
- get used to → 慣れる
It took me a while to get used to my new job.
(新しい仕事に慣れるのに時間がかかった。)
- get over → 乗り越える / 克服する
It took him a long time to get over the breakup.
(彼は失恋を乗り越えるのに時間がかかった。)
- get along with → 仲良くする
She gets along with everyone in the office.
(彼女は職場の皆とうまくやっている。)
- get in touch → 連絡を取る
I need to get in touch with my manager.
(マネージャーに連絡を取らないと。)

make の使い方

➤ "make" は「作る」「引き起こす」「決める」「準備する」など、たくさんの意味がある超便利な単語です。

① 「作る / 料理する」

- She made a cake for my birthday.
(彼女は私の誕生日にケーキを作った。)
- I made a cup of coffee.
(私はコーヒーを一杯入れた。)

② 「引き起こす / 変化を生じさせる」

- His words made me happy.
(彼の言葉は私を幸せにした。)
- The news made her cry.
(そのニュースは彼女を泣かせた。)

③ 「決める / 計画する」

- We need to make a decision soon.
(私たちは早く決断をしなければならない。)
- He made a plan for the weekend.
(彼は週末の計画を立てた。)

④ 「準備する / 手配する」

- I made a reservation at the restaurant.
(私はレストランの予約をした。)
- She made an appointment with the doctor.
(彼女は医者との予約をした。)

⑤ 「引き起こす / 影響を与える」

- This movie made a big impact on me.
(この映画は私に大きな影響を与えた。)
- Hard work makes a difference.
(努力は結果を変える。)

日常でよく使う "make" のフレーズ

- make a decision → 決断する
I need to make a decision soon.
(私は早く決断しなければならない。)
- make a mistake → ミスをする
Everyone makes mistakes sometimes.
(誰でもたまにはミスをする。)
- make a reservation → 予約をする
She made a reservation at a nice restaurant.
(彼女は素敵なレストランの予約をした。)
- make an effort → 努力する
You need to make an effort if you want to improve.
(上達したいなら努力する必要がある。)
- make sense → 理にかなう / 意味がわかる
That doesn't make sense.
(それは意味がわからない。)
- make a promise → 約束をする
He made a promise to help me.
(彼は私を助けると約束した。)
- make money → お金を稼ぐ
She makes a lot of money from her business.
(彼女は自分のビジネスでたくさんお金を稼いでいる。)
- make a difference → 変化をもたらす / 影響を与える
Even small actions can make a difference.
(小さな行動でも変化を生み出せる。)
- make fun of → からかう / バカにする
Don't make fun of others.
(人をからかわないで。)

have の使い方

➤ "have" は「持つ」「経験する」「食べる」「関係がある」など、たくさんの意味がある超便利な単語です。

① 「持つ / 所有する」

- I have a car.
(私は車を持っている。)
- She has a lot of friends.
(彼女は友達がたくさんいる。)

② 「食べる / 飲む」

- I have breakfast at 7 AM.
(私は朝7時に朝食を食べる。)
- Let's have a coffee.
(コーヒーを飲もう。)

③ 「関係がある / 病気にかかる」

- She has a meeting at 3 PM.
(彼女は午後3時に会議がある。)
- He has a cold.
(彼は風邪をひいている。)

日常でよく使う "have" のフレーズ

- have a good time → 楽しい時間を過ごす
We had a great time at the party.
(私たちはパーティーで楽しい時間を過ごした。)
- have lunch / dinner → 昼食・夕食をとる
Let's have lunch together.
(一緒にランチを食べよう。)
- have a break → 休憩する
I need to have a break after working all day.
(一日中働いた後は休憩が必要だ。)
- have a chat → おしゃべりする
We had a nice chat over coffee.
(私たちはコーヒーを飲みながら楽しく話した。)
- have a headache → 頭が痛い
She has a headache, so she's resting.
(彼女は頭が痛いので休んでいる。)
- have a meeting → 会議をする
We have a meeting at 10 AM.
(私たちは午前10時に会議がある。)
- have an idea → アイデアがある
I have an idea for our next project.
(次のプロジェクトについてアイデアがある。)
- have fun → 楽しむ
Have fun on your trip!
(旅行楽しんでね！)
- have a feeling → 予感がする
I have a feeling that it will rain tomorrow.
(明日は雨が降る予感がする。)

run の使い方

➤ "run" は「走る」だけじゃなく、「動く」「運営する」「続く」などの意味でも使われる！

① 「走る」(基本の意味)

- He runs every morning to stay fit.
(彼は健康のために毎朝走る。)

② 「動く / 作動する」(機械やシステムなど)

- The camera is running, so be ready.
(カメラが回ってるから、準備してね。)

③ 「運営する / 経営する」

- She runs a successful production company.
(彼女は成功した制作会社を経営している。)

④ 「続く / 続行する」

- The show will run for three months.
(そのショーは3か月間続く。)

⑤ 「急いで行く / 駆けつける」

- I have to run to the studio now.
(今すぐスタジオに急がなきゃ。)

even の使い方

➤ "even" は「～でさえ」「もっと〇〇」「予想外」の意味で使われます。

① 「～でさえ」

- Even the best actors make mistakes.
(最高の俳優でさえミスをする。)

② 「もっと〇〇」

- This scene is even harder than the last one.
(このシーンは前のよりさらに難しい。)

③ 「予想外の驚き」

- I can't believe he even forgot his lines!
(彼がセリフまで忘れたなんて信じられない！)

another / other / the other / others の違い

① "another" (もう1つの / 別の1つ)

➤ 「1つだけ」別のものを指す

- Can I have another coffee?
(もう1杯コーヒーをもらえますか?)

② "other" (ほかの○○)

➤ 「複数のほかのもの」を指す！名詞の前につける！

- Do you have other questions?
(ほかに質問はありますか?)

③ "the other" (残りの1つ / もう1つ)

➤ 「複数のほかのもの」を指す！名詞の前につける！

- I have two scripts. One is a comedy, and the other is a drama.
(私は2つの台本を持っている。1つはコメディで、もう1つはドラマだ。)

④ "others" (ほかのもの / 他の人たち)

➤ 「他のもの・他の人たち」だけど、後ろに名詞はつけない！

- Some actors prefer dramas, while others like action movies.
(ドラマを好む俳優もいれば、アクション映画が好きな俳優もいる。)

must / have to の違い

① must

- 話し手の強い意志や主張（ルールではなく、個人的に「絶対！」な感じ）
 - You must work hard.
（あなたは一生懸命働かないといけない。）

② have to

- ルールや外的な理由で「やらなければいけない」
 - I have to be on set by 6 AM.
（朝6時までに撮影現場にいなきゃいけない。）

until / by の違い

① until

- その時まで「ずっと続く」
 - I will stay here until 6 PM.
（私は6時までここにいます。）

② by

- その時まで「完了する」
 - I need to finish the script by 6 PM.
（6時までに台本を終えないといけない。）

hear / listen の違い

① hear

➤ 無意識に耳に入る（自然に聞こえる）

- I heard a strange noise backstage.
（私は舞台裏で変な音を聞いた。）

② listen

➤ ルールや外的な理由で「やらなければいけない」

- I'm listening to the director's instructions.
（私は監督の指示を聞いています。）

can / be able to の違い

① can

➤ 気軽に「できる」

- I can memorize my lines quickly.
（私はセリフをすぐに覚えられる。）

② be able to

➤ 可能性・能力・未来にも使える

- She will be able to perform after some rest.
（彼女は少し休めば演技ができるようになる。）

① 挨拶・会話の始まり

- Hi, I'm ~. Nice to meet you. (こんにちは、~です。よろしくお願ひします。)
- Hey, how's it going? I'm ~. (やあ、調子はどう？私は~だよ。)
- What's up? I'm ~. (調子はどう？私は~だよ。)
- Good afternoon, I'm ~. (こんにちは、~だよ。)
- It's my pleasure to meet you. (お会いできて光栄です。)

② 「How are you?」への返事

- I'm good, thanks. (元気だよ、ありがとう。)
- Pretty good, how about you? (結構いい感じだよ、君は？)
- Feeling awesome. (最高の気分だよ。)
- Doing fantastic. (バッチリだよ。)
- Not much. (特に普通だよ。)
- Not bad. (悪くないよ。)
- I'm exhausted. (クタクタだよ。)

③ 会話を終えるときのフレーズ

- See you soon. (じゃあね、また近いうちに。)
- Until next time. (また今度。)
- Talk to you later. (また後で話そうね。)
- Take care. (気をつけてね。)
- Hope to see you again soon. (また近いうちに会えるといいね。)

④ 意見に同意する時

- I agree with you. (同感だよ。)
- You're right. (その通りだね。)
- That makes sense. (それは理にかなっているね。)
- For sure. (確かに。)
- I know what you mean. (そうだよ。)
- I'm on the same page. (同じ考えだよ。)
- Absolutely. (絶対そうだね。)
- Exactly. (まさにその通りだよ。)
- I can't agree more. (全くその通りだね。)

⑤ やんわり意見を否定する時

- I don't think so. (そうは思わないな。)
- I'm not sure. (ちょっとわからないな。)
- Not too sure about that. (それはあまりわからないな。)
- No offense, but ~. (気を悪くしないでね、でも～。)
- I understand that, but ~. (それは理解できるけど、～。)
- I see where you're coming from, but ~. (言いたいことは分かるけど、～。)

⑥ 驚いたときのリアクション

- That's crazy! (やばいね!)
- No way! (そんな、まじかよ!)
- You've gotta be kidding me! (冗談でしょ!?)
- That's impossible! (そんな訳ないでしょ!)
- Are you serious? (マジで!?)
- I'm speechless. (言葉が出ないよ。)

⑦ 言葉に詰まった時

- You know... (えーと...)
- I mean... (つまり...)
- Like... (なんか...)
- Well... (まあ...)
- Actually... (実は...)
- Basically... (基本的に...)

⑧ 物事を忘れた時

- I totally forgot. (完全に忘れてた。)
- It slipped my mind. (うっかり忘れてた。)
- It doesn't ring a bell. (ピンとこない。)
- I'm drawing a blank. (何も頭から出てこない。)
- It's on the tip of my tongue. (ここまで出かけてるんだけど。)

⑨ 短くて便利な英単語・表現

- Nothing (なんでもない)
- True (だね)
- Probably (多分)
- Kinda (まあね)
- Sorry? (ごめん、なんて?)
- Anytime (いつでも)
- Close! (惜しい!)
- Definitely (間違いない)
- Done! (終わった!)
- Obviously (もちろん、明らかに)
- Deal! (決まり!)
- Congrats (おめでとう)
- Literally (マジで)
- Gotcha (了解)

⑩ 性格を表す単語

- calm (穏やかな)
- tolerant (寛大な)
- patient (我慢強い)
- indecisive (優柔不断な)
- together (しっかりした)
- quiet (物静かな)
- modest (謙虚な)
- dependable (頼りになる)
- organized (まめな)
- considerate (思いやりのある)
- reliable (信頼できる)
- talkative (話好きな)
- laidback (おおらかな)
- mature (大人な)
- competitive (負けず嫌いな)
- amiable (愛想の良い)
- cheerful (明るい)
- faithful (誠実な)
- moody (気分屋な)
- optimistic (楽観的な)

原形	過去形	過去分詞形	意味
be	was, were	been	～である
bear	bore	borne / born	支える
beat	beat	beaten	打つ、負かす
become	became	become	～になる
begin	began	begun	始める
bite	bit	bitten	噛む
blow	blew	blown	吹く
break	broke	broken	壊す
bring	brought	brought	持ってくる
build	built	built	建てる
burn	burnt	burnt	燃やす

不規則動詞まとめ

原形	過去形	過去分詞形	意味
buy	bought	bought	買う
catch	caught	caught	つかむ
choose	chose	chosen	選ぶ
come	came	come	来る
cost	cost	cost	費用がかかる
cut	cut	cut	切る
dig	dug	dug	掘る
do	did	done	する
draw	drew	drawn	描く
drink	drank	drunk	飲む
drive	drove	driven	運転する

不規則動詞まとめ

原形	過去形	過去分詞形	意味
eat	ate	eaten	食べる
fall	fell	fallen	落ちる
feed	fed	fed	食べ物を与える
feel	felt	felt	感じる
fight	fought	fought	戦う
find	found	found	見つける
forget	forgot	forgotten/forg ot	忘れる
get	got	gotten, got	手に入れる
give	gave	given	与える
go	went	gone	行く
grow	grew	grown	育つ

原形	過去形	過去分詞形	意味
hang	hung	hung	掛ける
have	had	had	持つ
hear	heard	heard	聞こえる
hit	hit	hit	打つ
hold	held	held	手でつかむ
hurt	hurt	hurt	傷つける
keep	kept	kept	保つ
know	knew	known	知っている
lay	laid	laid	横たえる
lead	led	led	導く
leave	left	left	去る

不規則動詞まとめ

原形	過去形	過去分詞形	意味
let	let	let	～させる
lie	lay	lain	横たわる
lose	lost	lost	なくす
make	made	made	作る
mean	meant	meant	意味する
meet	met	met	会う
overtake	overtook	overtaken	追い越す
pay	paid	paid	支払う
put	put	put	置く
read	read	read	読む
ride	rode	ridden	乗る

原形	過去形	過去分詞形	意味
ring	rang	rung	ベルが鳴る
rise	rose	risen	上がる
run	ran	run	走る
say	said	said	言う
see	saw	seen	見る
sell	sold	sold	売る
send	sent	sent	送る
set	set	set	置く
shake	shook	shaken	振る
shoot	shot	shot	発射する
show	showed	shown	見せる

不規則動詞まとめ

原形	過去形	過去分詞形	意味
shut	shut	shut	閉じる
sing	sang	sung	歌う
sink	sank	sunk	沈む
sit	sat	sat	座る
sleep	slept	slept	眠っている
speak	spoke	spoken	話す
spend	spent	spent	費やす
spread	spread	spread	広げる
stand	stood	stood	立つ
steal	stole	stolen	盗む
sweep	swept	swept	掃く

原形	過去形	過去分詞形	意味
swim	swam	swum	泳ぐ
take	took	taken	持って行く
teach	taught	taught	教える
tell	told	told	言う、知らせる
think	thought	thought	思う、考える
throw	threw	thrown	投げる
understand	understood	understood	理解する
wake	woke	woken	目が覚める
wear	wore	worn	身につける
win	won	won	勝つ
write	wrote	written	書く